

大阪府済生会千里病院 内科専門研修プログラム



社会福祉法人 恩賜財団 大阪府済生会千里病院

目次

タイトル	整備基準	ページ
1. 理念・使命・特性	整備基準 1~3	P1
2. 募集専攻医数	整備基準 27	P2
3. 専門知識・専門技能とは	整備基準 4、5	P4
4. 専門知識・専門技能の習得計画	整備基準 8~10、13~15、41	P4
5. プログラム全体と各施設におけるカンファレンス	整備基準 13~14	P6
6. リサーチマインドの養成計画	整備基準 6、12、30	P7
7. 学術活動に関する研修計画	整備基準 12	P7
8. 医師としての倫理性、社会性などの研修計画	整備基準 7	P7
9. 地域医療における施設群の役割	整備基準 11、28	P8
10. 地域医療に関する研修計画	整備基準 28、29	P8
11. 内科専攻医研修	整備基準 16	P9
12. 専攻医の評価時期と方法	整備基準 17、19~22、53	P10
13. 専門研修プログラム管理委員会の運営計画	整備基準 34、35、37~39	P11
14. プログラムとしての指導者研修 (FD) の計画	整備基準 18、43	P12
15. 専攻医の就業環境の整備機能 (労務管理)	整備基準 40	P12
16. 内科専門研修プログラムの改善方法	整備基準 48~51	P12
17. 内科専門研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件	整備基準 33	P13
18. 済生会千里病院内科専門研修施設群		P14
19. 済生会千里病院内科専門研修プログラム管理委員会		P33
別表 1 済生会千里病院疾患群症例病歴要約到達目標		P34
別表 2 済生会千里病院内科専門研修 週間スケジュール (例)		P35

1. 理念・使命・特性

理念【整備基準1】

- 1) 濟生会千里病院は、「心のこもったチーム医療を行う」を病院の理念として掲げ、患者さんのために、地域のために、心を込めて最高最適の医療を提供することを職員の信条としています。本プログラムは、大阪豊能医療圏の中心的な急性期病院の一つである済生会千里病院を基幹施設として、大阪府豊能医療圏・近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を経て大阪府の医療事情を理解し、地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練され、基本的臨床能力獲得後は必要に応じた可塑性のある内科専門医として大阪府全域を支える内科専門医の育成を行います。
- 2) 初期臨床研修を修了した内科専攻医は、本プログラム専門研修施設群での3年間（基幹施設2年間+連携施設1年間）に、豊富な臨床経験を持つ指導医の適切な指導の下で、内科専門医制度研修カリキュラムに定められた内科領域全般にわたる研修を通じて、標準的かつ全人的な内科的医療の実践に必要な知識と技能とを修得します。
- 内科領域全般の診療能力とは、臓器別の内科系 Subspecialty 分野の専門医にも共通して求められる基礎的な診療能力です。また、知識や技能に偏らずに、患者に人間性をもって接すると同時に、医師としてのプロフェッショナリズムとリサーチマインドの素養をも修得して可塑性が高く様々な環境下で全人的な内科医療を実践する先導者の持つ能力です。内科の専門研修では、幅広い疾患群を順次、経験してゆくことによって、内科の基礎的診療を繰り返して学ぶとともに、疾患や病態に特異的な診療技術や患者の抱える多様な背景に配慮する経験とが加わることに特徴があります。そして、これらの経験を単に記録するのではなく、病歴要約として、科学的根拠や自己省察を含めて記載し、複数の指導医による指導を受けることによってリサーチマインドを備えつつも全人的医療を実践する能力を涵養することを可能とします。

使命【整備基準2】

- 1) 大阪府豊能医療圏に限定せず、超高齢社会を迎えた日本を支える内科専門医として、1) 高い倫理観を持ち、2) 最新の標準的医療を実践し、3) 安全な医療を心がけ、4) プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を提供し、臓器別専門性に著しく偏ることなく全的な内科診療を提供すると同時にチーム医療を円滑に運営できる研修を行います。
- 2) 本プログラムを修了し内科専門医の認定を受けた後も、内科専門医は常に自己研鑽を続け、最新の情報を学び、新しい技術を修得し、標準的な医療を安全に提供し、疾病の予防、早期発見、早期治療に努め、自らの診療能力をより高めることを通じて内科医療全体の水準をも高めて、地域住民、日本国民を生涯にわたって最善の医療を提供してサポートできる研修を行います。
- 3) 疾病の予防から治療に至る保健・医療活動を通じて地域住民の健康に積極的に貢献できる研修を行います。
- 4) 将来の医療の発展のためにリサーチマインドを持ち臨床研究、基礎研究を実際に行う契機となる研修を行います。

特性

- 1) 本プログラムは、大阪府豊能医療圏の中心的な急性期病院の一つである済生会千里病院を基幹施設として、同医療圏、近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を経て超高齢社会を迎えた我が国の医療事情を理解し、必要に応じた可塑性のある、地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練されます。研修期間は基幹施設2年間+連携施設1年間の3年間になります。連携施設での研修は基本的に専攻医2年目を予定しています。
- 2) 済生会千里病院内科施設群専門研修では、症例をある時点で経験するということだけではなく、主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人

一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。そして、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得をもって目標への到達とします。

- 3) 基幹施設である済生会千里病院は、大阪府豊能医療圏の中心的な急性期病院であるとともに、地域の病診・病病連携の中核であります。一方で、地域に根ざす第一線の病院でもあり、コモンディジーズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。
- 4) 専攻医研修の最初の2年間で、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた70疾患群のうち、少なくとも通算で45疾患群、120症例以上を経験し、専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録できます。そして、専攻医2年修了時点で、指導医による形成的な指導を通じて、内科専門医ボードによる評価に合格できる29症例の病歴要約を作成できます（P.33別表1「済生会千里病院疾患群症例病歴要約到達目標」参照）。
- 5) 済生会千里病院内科研修施設群の各医療機関が地域においてどのような役割を果たしているかを経験するために、専門研修2年目の1年間、立場や地域における役割の異なる医療機関で研修を行うことによって、内科専門医に求められる役割を実践します。
- 6) 基幹施設である済生会千里病院での2年間と専門研修施設群での1年間（専攻医3年修了時）で、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた70疾患群のうち、少なくとも通算で56疾患群、160症例以上を経験し、専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録できます。可能な限り、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた70疾患群、200症例以上の経験を目指します（P.33別表1「済生会千里病院疾患群症例病歴要約到達目標」参照）。

専門研修後の成果【整備基準3】

内科専門医の使命は、1) 高い倫理観を持ち、2) 最新の標準的医療を実践し、3) 安全な医療を心がけ、4) プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を展開することです。内科専門医のかかわる場は多岐にわたるが、それぞれの場に応じて、

- 1) 地域医療における内科領域の診療医（かかりつけ医）
- 2) 内科系救急医療の専門医
- 3) 病院での総合内科（Generality）の専門医
- 4) 総合内科的視点を持ったSubspecialist

に合致した役割を果たし、地域住民、国民の信頼を獲得します。それぞれのキャリア形成やライフステージ、あるいは医療環境によって、求められる内科専門医像は單一でなく、その環境に応じて役割を果たすことができる、必要に応じた可塑性のある幅広い内科専門医を多く輩出することにあります。

済生会千里病院内科専門研修施設群での研修終了後はその成果として、内科医としてのプロフェッショナリズムの涵養とGeneralなマインドを持ち、それぞれのキャリア形成やライフステージによって、これらいずれかの形態に合致することもあれば、同時に兼ねることも可能な人材を育成します。そして、大阪府豊能医療圏に限定せず、超高齢社会を迎えた日本のいざれの医療機関でも不安なく内科診療にあたる実力を獲得していくことを要します。また、希望者は Subspecialty 領域専門医の研修や高度・先進的医療、大学院などの研究を開始する準備を整える経験をできることも、本施設群での研修が果たすべき成果です。

2. 募集専攻医数【整備基準27】

下記1)～7)により、済生会千里病院内科専門研修プログラムで募集可能な内科専攻医数は2022年度1学年5名とします（シーリングによる定員の変更があります）

- 1) 済生会千里病院内科後期研修医の受け入れは1学年1-2名の実績があります。

- 2) 診療実績、剖検数は十分にあり、指導医も 11 名在籍しているため、毎年 3 名の内科専攻医の受け入れは十分可能です。2021 年度の受け入れ数から 2022 年度受け入れ可能数を 5 名としています。
- 3) 剖検体数は 2016 年度 10 体、2017 年度 6 体、2018 年度 3 体です。

表1. 済生会千里病院内科系診療科別診療実績

2019 年度実績	新入院患者実数 (人/年)	外来延患者数 (延人数/年)
消化器内科	1,180	15,201
循環器内科	927	13,557
呼吸器内科	411	7,364
糖尿病代謝内科	92	6,090
総合診療部	0	901
神経内科	0	901
膠原病リウマチ内科	132	3,303

- 4) 消化器疾患、循環器疾患、救急疾患の患者が多いのが当院の特徴です。当院には救命救急センターがありますが、当該センターは内科系診療科とは独立しているため、上記の診療実績には含めておりません。それでも内科系の救急患者数が多いことがわかります。内分泌、血液、膠原病領域の入院患者は少なめですが、外来患者診療を含めること、および 1 学年 5 名（2022 年度）と定員を少な目にしていていることで十分な症例を経験可能です。
- 5) 血液、神経、アレルギーおよび感染症を除く 9 領域の専門医が少なくとも 1 名以上在籍しています（P. 16-P. 31 「済生会千里病院内科専門研修施設群」参照）
- 6) 1 学年 5 名（2022 年度）までの専攻医であれば、専攻医 2 年修了時に「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 45 疾患群、120 症例以上の診療経験と 29 病歴要約の作成は達成可能です。
- 7) 連携施設には、高次機能・専門病院 2 施設、地域の基幹病院 7 施設、計 9 施設あり、専攻医のさまざま希望・将来像に対応可能です。2022 年度は、兵庫県伊丹市、西宮市の地域基幹 3 病院と新たに連携を行い、大阪府豊能 2 次医療圏と兵庫県内の異なる 2 つの医療圏での研修可能としています。
- 8) 専攻医 3 年修了時に「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた少なくとも 56 疾患群、160 症例以上の診療経験は達成可能です。

3. 専門知識・専門技能とは

- 1) 専門知識【整備基準4】 [「内科研修カリキュラム項目表」参照]
 専門知識の範囲（分野）は、「総合内科」、「消化器」、「循環器」、「内分泌」、「代謝」、「腎臓」、「呼吸器」、「血液」、「神経」、「アレルギー」、「膠原病および類縁疾患」、「感染症」、ならびに「救急」で構成されます。
 「内科研修カリキュラム項目表」に記載されている、これらの分野における「解剖と機能」、「病態生理」、「身体診察」、「専門的検査」、「治療」、「疾患」などを目標（到達レベル）とします。
- 2) 専門技能【整備基準5】 [「技術・技能評価手帳」参照]
 内科領域の「技能」は、幅広い疾患を網羅した知識と経験とに裏付けをされた、医療面接、身体診察、検査結果の解釈、ならびに科学的根拠に基づいた幅の広い診断・治療方針決定を指します。さらに全人的に患者・家族と関わってゆくことや他の Subspecialty 専門医へのコンサルテーション能力などが加わります。これらは、特定の手技の修得や経験数によって表現することはできません。

4. 専門知識・専門技能の習得計画

- 1) 到達目標【整備基準 8~10】(P.34 別表 1「済生会千里病院疾患群症例病歴要約到達目標」参照) 主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し、200 症例以上経験することを目標とします。内科領域研修を幅広く行うため、内科領域内のどの疾患を受け持つかについては多様性があります。そこで、専門研修（専攻医）年限ごとに内科専門医に求められる知識・技能・態度の修練プロセスは以下のように設定します。

○専門研修（専攻医）1年:

- ・ 症例：「研修手帳（疾患群項目表）」に定める 70 疾患群のうち、少なくとも 20 疾患群、60 症例以上を経験し、専攻医登録評価システム（J-OSLER）にその研修内容を登録します。以下、全ての専攻医の登録状況については担当指導医の評価と承認が行われます。
- ・ 専門研修修了に必要な病歴要約を 10 症例以上記載して専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録します。
- ・ 技能：研修中の疾患群について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を指導医、Subspecialty 上級医とともに行うことができます。
- ・ 態度：専攻医自身の自己評価と指導医、Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価とを複数回行って態度の評価を行い、担当指導医がフィードバックを行います。

○専門研修（専攻医）2年:

- ・ 症例：「研修手帳（疾患群項目表）」に定める 70 疾患群のうち、通算で少なくとも 45 疾患群、120 症例以上の経験をし、専攻医登録評価システム（J-OSLER）にその研修内容を登録します。
- ・ 専門研修修了に必要な病歴要約をすべて記載して専攻医登録評価システム（J-OSLER）への登録を終了します。
- ・ 技能：研修中の疾患群について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を指導医、Subspecialty 上級医の監督下で行うことができます。
- ・ 態度：専攻医自身の自己評価と指導医、Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価を複数回行って態度の評価を行います。専門研修（専攻医）1 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします。

○専門研修（専攻医）3年:

- ・ 症例：主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し、200 症例以上経験することを目標とします。修了認定には、主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 160 症例以上（外来症例は 1 割まで含むことができます）を経験し、専攻医登録評価システム（J-OSLER）にその研修内容を登録します。
- ・ 専攻医として適切な経験と知識の修得ができるなどを指導医が確認します。
- ・ 既に専門研修 2 年次までに登録を終えた病歴要約は、日本内科学会病歴要約評価ボード（仮称）による査読を受けます。査読者の評価を受け、形成的により良いものへ改訂します。但し、改訂に値しない内容の場合は、その年度の要約受理が認められることになります。
- ・ 技能：内科領域全般について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を自立して行うことができます。
- ・ 態度：専攻医自身の自己評価と指導医、Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価とを複数回行って態度の評価を行います。専門研修（専攻医）2 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします。また、内科専門医としてふさわしい態度、プロフェッショナリズム、自己学習能力を修得しているか否かを指導医が専攻医と面談し、さらなる改善を図ります。

専門研修修了には、すべての病歴要約 29 症例の受理と、少なくとも 70 疾患群中の 56 疾患群以上で計 160 症例以上の経験を必要とします。専攻医登録評価システム（J-OSLER）における研修ログへの登録と指導医の評価と承認とに

よって目標を達成します。

済生会千里病院内科施設群専門研修では、「研修カリキュラム項目表」の知識、技術・技能修得は必要不可欠なものであり、修得するまでの最短期間は3年間（原則として基幹施設2年間+連携施設1年間）としますが、修得が不十分な場合、修得できるまで研修期間を1年単位で延長します。カリキュラムの知識、技術・技能を修得したと認められた専攻医には積極的に Subspecialty 領域専門医取得に向けた知識、技術・技能研修を開始させます。

- 2) 臨床現場での学習【整備基準 13】内科領域の専門知識は、広範な分野を横断的に研修し、各種の疾患経験との省察とによって獲得されます。内科領域を 70 疾患群（経験すべき病態等を含む）に分類し、それぞれに提示されているいざれかの疾患を順次経験します（下記 1）～5）参照）。この過程によって専門医に必要な知識、技術・技能を修得します。代表的なものについては病歴要約や症例報告として記載します。また、自らが経験することのできなかった症例については、カンファレンスや自己学習によって知識を補足します。これらを通じて、遭遇する事が稀な疾患であっても類縁疾患の経験と自己学習によって適切な診療を行えるようにします。
- ① 内科専攻医は、担当指導医もしくは Subspecialty の上級医の指導の下、主担当医として入院症例と外来症例の診療を通じて、内科専門医を目指して常に研鑽します。主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。
 - ② 定期的（毎週 1 回程度）に開催する各診療科あるいは複数科による合同カンファレンスを通じて、担当症例の病態や診断過程の理解を深め、多面的な見方や最新の情報を得ます。また、プレゼンターとして情報検索およびコミュニケーション能力を高めます。
 - ③ Subspecialty 診療科所属の 3 年次には、外来（初診を含む）に週 1 回程度、担当医として経験を積みます。
 - ④ 救急車ではなく、時間外救急患者のための walk-in 外来で内科、及び簡単な外科処置も含めた救急診療の経験を積みます。
 - ⑤ 院内当直医として入院患者の急変時対応などの経験を積みます。
 - ⑥ 必要に応じて、Subspecialty 診療科検査を担当します。

3) 臨床現場を離れた学習【整備基準 14】

- 1) 内科領域の救急対応、2) 最新のエビデンスや病態理解・治療法の理解、3) 標準的な医療安全や感染対策に関する事項、4) 医療倫理、医療安全、感染防御、臨床研究や利益相反に関する事項、5) 専攻医の指導・評価方法に関する事項、などについて、以下の方法で研鑽します。
- ① 定期的（毎週 1 回程度）に開催する各診療科での抄読会
- ② 医療倫理（年 1 回）・医療安全（年 2 回）・感染防御（年 2 回）に関する講習会が予定されておりを受講します。院内必須の講習であり、当日に受けられなかった場合はビデオ講習などで補講を行っています。プログラム整備基準の年 2 回以上の受講は達成します。
- ③ CPC を定期的に行っています（病院全体で行った内科系患者の CPC の 2018 年度実績 3 回）。
- ④ 研修施設群合同カンファレンス（2020 年度：年 2 回開催予定：コロナ禍で開催できず）
- ⑤ 地域参加型のカンファレンス（千里診療連携セミナー 4 回/年）を定期的に開催しています。
- ⑥ JMECC 受講を義務付けています。内科専攻医は必ず専門研修 1 年もしくは 2 年までに 1 回受講します。
- ⑦ 内科系学術集会（下記「7. 学術活動に関する研修計画」参照）
- ⑧ 各種指導医講習会/JMECC 指導者講習会 JMECC については内科スタッフが JMECC アシスタントや JMECC インストラクターになるための指導者講習も受講してもらっています。

4) 自己学習【整備基準 15】

「研修カリキュラム項目表」では、知識に関する到達レベルを A（病態の理解と合わせて十分に深く知っている）と B（概念を理解し、意味を説明できる）に分類、技術・技能に関する到達レベルを A（複数回の経験を経て、安全に実施できる、または判定できる）、B（経験は少数例ですが、指導者の立ち会いのもとで安全に実施できる、または判定できる）、C（経験はないが、自己学習で内容と判断根拠を理解できる）に分類、さらに、症例に関する到達

レベルを A (主担当医として自ら経験した), B (間接的に経験している (実症例をチームとして経験した, または症例検討会を通して経験した) , C (レクチャー, セミナー, 学会が公認するセルフスタディやコンピューターシミュレーションで学習した) と分類しています. (「研修カリキュラム項目表」参照) 自身の経験がなくても自己学習すべき項目については、以下の方法で学習します。

- ① 内科系学会が行っているセミナーのDVDやオンデマンドの配信
- ② 日本内科学会雑誌にあるMQQ
- ③ 日本内科学会が実施しているセルフトレーニング問題

など

5) 研修実績および評価を記録し、蓄積するシステム 【整備基準41】

専攻医登録評価システム (J-OSLER) を用いて、以下を web ベースで日時を含めて記録します。

- ・専攻医は全 70 病患群の経験と 200 症例以上を主担当医として経験することを目標に、通算で最低 56 病患群以上 160 症例の研修内容を登録します。指導医はその内容を評価し、合格基準に達したと判断した場合に承認を行います。
- ・専攻医による逆評価を入力して記録します。
- ・全 29 症例の病歴要約を指導医が校閲後に登録し、専門研修施設群とは別の日本内科学会病歴要約評価ボード (仮称) によるピアレビューを受け、指摘事項に基づいた改訂を受理 (アクセプト) されるまでシステム上で行います。
- ・専攻医は学会発表や論文発表の記録をシステムに登録します。
- ・専攻医は各専門研修プログラムで出席を求められる講習会等 (例: CPC, 地域連携カンファレンス, 医療倫理・医療安全・感染対策講習会) の出席をシステム上に登録します。

5. プログラム全体と各施設におけるカンファレンス 【整備基準 13, 14】

済生会千里病院内科専門研修施設群でのカンファレンスの概要は、施設ごとに実績を記載しました (P. 16-P. 31 「済生会千里病院内科専門研修施設群」参照)。プログラム全体と各施設のカンファレンスについては、基幹施設である済生会千里病院専攻医研修センターが把握し、定期的に E-mail などで専攻医に周知し、出席を促します。

6. リサーチマインドの養成計画 【整備基準 6, 12, 30】

内科専攻医に求められる姿勢とは単に症例を経験することにとどまらず、これらを自ら深めてゆく姿勢です。この能力は自己研鑽を生涯にわたってゆく際に不可欠となります。

済生会千里病院内科専門研修施設群は基幹施設、連携施設のいずれにおいても、

- ① 患者から学ぶという姿勢を基本とする。
 - ② 科学的な根拠に基づいた診断、治療を行う (EBM:evidencebasedmedicine) .
 - ③ 最新の知識、技能を常にアップデートする (生涯学習) .
 - ④ 診断や治療の evidence の構築・病態の理解につながる研究を行う。
 - ⑤ 症例報告を通じて深い洞察力を磨く。
といった基本的なリサーチマインドおよび学問的姿勢を涵養します。併せて、
- ① 初期研修医あるいは医学部学生の指導を行う。
 - ② 後輩専攻医の指導を行う。
 - ③ メディカルスタッフを尊重し、指導を行う。
を通じて、内科専攻医としての教育活動を行います。

7. 学術活動に関する研修計画 【整備基準 12】

済生会千里病院内科専門研修施設群は基幹病院、連携病院のいずれにおいても、

- ① 内科系の学術集会や企画に年2回以上参加します (必須) .

※日本内科学会本部または支部主催の生涯教育講演会、年次講演会、CPC および内科系 Subspecialty 学会の学術講演会・講習会を推奨します。

- ② 経験症例についての文献検索を行い、症例報告を行います。
- ③ 臨床的疑問を抽出して臨床研究を行います。
- ④ 内科学に通じる基礎研究を行います。

を通じて、科学的根拠に基づいた思考を全人的に活かせるようにします。

内科専攻医は学会発表あるいは論文発表は筆頭者2件以上行います。

なお、専攻医が、社会人大学院などを希望する場合でも、大阪府済生会千里病院内科専門研修プログラムの修了認定基準を満たせるようにバランスを持った研修を推奨します。

8. 医師としての倫理性、社会性などの研修計画【整備基準7】

済生会千里病院内科専門研修施設群は基幹施設、連携施設のいずれにおいても指導医、Subspecialty 上級医とともに、内科専門医として高い倫理観と社会性を有することが要求されるため、下記①～⑩について積極的な研鑽を促します。プログラム全体と各施設のカンファレンスについては、基幹施設である済生会千里病院専攻医研修センターが把握し、定期的にE-mailなどで専攻医に周知し、出席を促します。

- ① 患者とのコミュニケーション能力
- ② 患者中心の医療の実践
- ③ 患者から学ぶ姿勢
- ④ 自己省察の姿勢
- ⑤ 医の倫理への配慮
- ⑥ 医療安全への配慮
- ⑦ 公益に資する医師としての責務に対する自律性（プロフェッショナリズム）
- ⑧ 地域医療保健活動への参画
- ⑨ 他職種を含めた医療関係者とのコミュニケーション能力
- ⑩ 後輩医師への指導

9. 地域医療における施設群の役割【整備基準11, 28】

内科領域では、多岐にわたる疾患群を経験するための研修は必須です。済生会千里病院内科専門研修施設群は大阪府豊能医療圏と兵庫県伊丹市と西宮市の医療機関から構成されています。

済生会千里病院は、大阪府豊能医療圏の中心的な急性期病院の一つであるとともに、地域の病診・病病連携の中核です。一方で、地域に根ざす第一線の病院でもあり、コモンディジーズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につけます。

連携施設は、内科専攻医の多様な希望・将来性に対応し、異なる地域医療や全人的医療を組み合わせて、急性期医療、慢性期医療および患者の生活に根ざした地域医療を経験できることを目的に、高次機能・専門病院である大阪大学医学部附属病院、大阪刀根山医療センター、地域基幹病院である市立豊中病院、市立池田病院、市立吹田市民病院、箕面市立病院、兵庫県での地域貢献の可能な市立伊丹病院、公立学校共済組合近畿中央病院、西宮市立中央病院の9病院で構成しています。

高次機能・専門病院では、高度な急性期医療、より専門的な内科診療、希少疾患を中心とした診療経験を研修し、臨床研究や基礎的研究などの学術活動の素養を身につけます。地域基幹病院では、済生会千里病院と異なる環境で、地域の第一線における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験をより深く研修します。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を積み重ねます。

済生会千里病院内科専門研修施設群(P. 16-P. 31)は、大阪府豊能医療圏と兵庫県伊丹市、西宮市の医療機関から構

成しているため、移動や連携には便利です。

10. 地域医療に関する研修計画【整備基準 28, 29】

済生会千里病院内科施設群専門研修では、症例のある時点で経験するということだけではなく、主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践し、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得を目標としています。

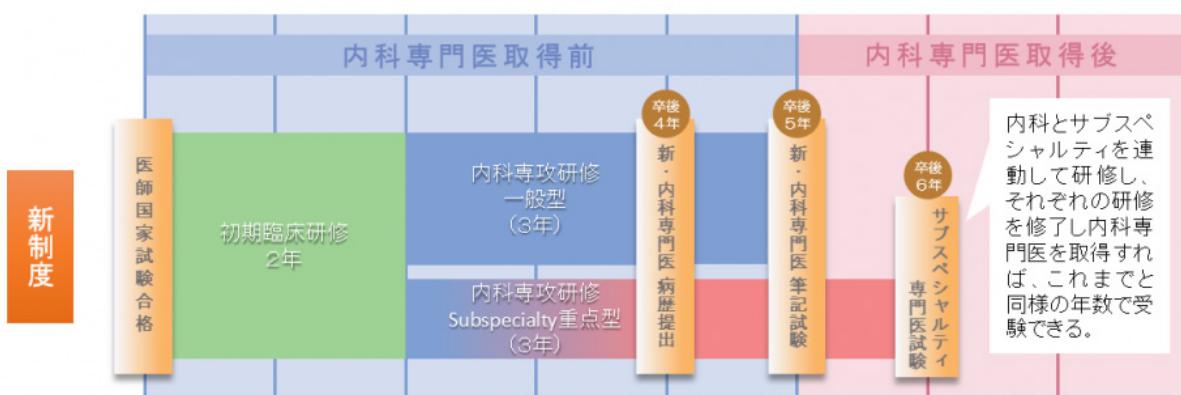
済生会千里病院内科施設群専門研修では、主担当医として診療・経験する患者を通じて、高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。

11. 内科専攻医研修【整備基準 16】

基幹施設である済生会千里病院内科で、専門研修（専攻医）1年目に当院にて内科全般にわたる専門研修を行います。専攻医2年目には連携施設にて専門研修を行います。これは1年目に引き続いて内科全般にわたる研修を行いますが、特に当院では症例数が不十分な疾患領域についての症例を重点的に経験します。専攻医1年目の秋に専攻医の希望・将来像、研修達成度およびメディカルスタッフによる360度評価（内科専門研修評価）などを基に、専門研修（専攻医）2年目の研修施設を調整し決定します。病歴提出を終える専門研修（専攻医）3年目の1年間は当院で研修を行います。

特に、2年目の連携施設での研修は、異なる医療圏での兵庫県での地域貢献を念頭とした連携施設研修を予定しています。ただし、受け入れ側の病院との協議により大阪府豊能医療圏での研修となる場合もあります。

Subspecialty の進路が決まっている専攻医については、Subspecialty 重点型研修として、研修達成度を確認しながら Subspecialty 分野の研修を増やしていくプログラムも可能で、連携施設での研修も Subspecialty 重点研修となります。



「連動研修(並行研修)」：内科専門研修にあたっては、その研修期間中にサブスペシャルティ領域を研修する状況があるが、この研修を基本領域のみの専門研修とするのではなく、サブスペシャルティ領域の専門研修としても取り扱うことを認める。但し、サブスペシャルティ専門研修としての指導と評価は、サブスペシャルティ指導医が行なう必要がある。

済生会千里病院内科専門研修プログラム（概念図）プログラムの基本型を図に示しました。

済生会千里病院内科専門研修プログラム（連携病院との連携の詳細）

基幹病院	連携病院A	連携病院B
済生会千里病院	市立豊中病院	大阪刀根山医療センター
	市立池田病院	西宮市立中央病院
	市立吹田市民病院	
	箕面市立病院	
	大阪大学医学部附属病院	
	近畿中央病院	
	市立伊丹病院	

連携病院とのさまざまな連携について示しています。連携病院Aは当院の連携病院であると同時に独自の専攻医研修プログラムをもつ基幹病院でもある施設です。連携病院Bは当院の連携病院であるが独自の専攻医研修プログラムはもたない施設です。

12. 専攻医の評価時期と方法【整備基準 17, 19~22】

(1) 済生会千里病院専攻医研修センターの役割

- ・済生会千里病院内科専門研修プログラム管理委員会の事務局を行います。
- ・済生会千里病院内科専門研修プログラム開始時に、各専攻医が初期研修期間などで経験した疾患について専攻医登録評価システム（J-OSLER）の研修手帳Web版を基にカテゴリー別の充足状況を確認します。
- ・3か月ごとに研修手帳Web版にて専攻医の研修実績と到達度を適宜追跡し、専攻医による研修手帳Web版への記入を促します。また、各カテゴリー内の研修実績と到達度が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。
- ・6か月ごとに病歴要約作成状況を適宜追跡し、専攻医による病歴要約の作成を促します。また、各カテゴリー内の病歴要約が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。
- ・6か月ごとにプログラムに定められている所定の学術活動の記録と各種講習会出席を追跡します。
- ・年に複数回（8月と2月、必要に応じて臨時に）、専攻医自身の自己評価を行います。その結果は専攻医登録評価システム（J-OSLER）を通じて集計され、1か月以内に担当指導医によって専攻医に形成的にフィードバックを行って、改善を促します。
- ・専攻医研修センターは、メディカルスタッフによる360度評価（内科専門研修評価）を毎年複数回（8月と2月、必要に応じて臨時に）行います。担当指導医、Subspecialty上級医に加えて、看護師長、看護師、臨床検査・放射線技師・臨床工学技士、事務員などから、接点の多い職員5人を指名し、評価します。評価表では社会人としての適性、医師としての適性、コミュニケーション、チーム医療の一員としての適性を多職種が評価します。評価は無記名方式で、専攻医研修センターもしくは統括責任者が各研修施設の研修委員会に委託して5名以上の複数職種に回答を依頼し、その回答は担当指導医が取りまとめ、専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録します（他職種はシステムにアクセスしません）。その結果は専攻医登録評価システム（J-OSLER）を通じて集計され、担当指導医から形成的にフィードバックを行います。
- ・日本専門医機構内科領域研修委員会によるサイトビジット（施設実地調査）に対応します。

(2) 専攻医と担当指導医の役割

- ・専攻医1人に1人の担当指導医（メンター）が済生会千里病院内科専門研修プログラム委員会により決定されます。
- ・専攻医はwebにて専攻医登録評価システム（J-OSLER）にその研修内容を登録し、担当指導医はその履修状況の確認をシステム上で行ってフィードバックの後にシステム上で承認します。この作業は日常臨床業務での経験に応じて順次行います。
- ・専攻医は、1年目専門研修終了時に研修カリキュラムに定める70疾患群のうち20疾患群、60症例以上の経験と登録を行うようにします。2年目専門研修終了時に70疾患群のうち45疾患群、120症例以上の経験と登録を行なうようにします。3年目専門研修終了時には70疾患群のうち56疾患群、160症例以上の経験の登録を修了し

ます。それぞれの年次で登録された内容は都度、担当指導医が評価・承認します。

- ・担当指導医は専攻医と十分なコミュニケーションを取り、研修手帳 Web 版での専攻医による症例登録の評価や専攻医研修センターからの報告などにより研修の進捗状況を把握します。専攻医は Subspecialty の上級医と面談し、専攻医が経験すべき症例について報告・相談します。担当指導医と Subspecialty の上級医は、専攻医が充足していないカテゴリー内の疾患を可能な範囲で経験できるよう、主担当医の割り振りを調整します。
- ・担当指導医は Subspecialty 上級医と協議し、知識、技能の評価を行います。
- ・専攻医は、専門研修（専攻医）2 年修了時までに 29 症例の病歴要約を順次作成し、専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録します。担当指導医は専攻医が合計 29 症例の病歴要約を作成することを促進し、内科専門ボードによる査読・評価で受理（アクセプト）されるように病歴要約について確認し、形成的な指導を行う必要があります。専攻医は内科専門医ボードのピアレビュー方式の査読・形成的評価に基づき、専門研修（専攻医）3 年次修了までにすべての病歴要約が受理（アクセプト）されるように改訂します。これによって病歴記載能力を形成的に深化させます。

(3) 評価の責任者年度ごとに担当指導医が評価を行い、基幹施設あるいは連携施設の内科研修委員会で検討します。その結果を年度ごとに済生会千里病院内科専門研修プログラム管理委員会で検討し、統括責任者が承認します。

(4) 修了判定基準【整備基準 53】

- 1) 担当指導医は、専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて研修内容を評価し、以下 i)～vi) の修了を確認します。
 - i) 主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し、計 200 症例以上（外来症例は 20 症例まで含むことができます）を経験することを目標とします。その研修内容を専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録します。修了認定には、主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 160 症例以上の症例（外来症例は登録症例の 1 割まで含むことができます）を経験し、登録済み（P.33 別表 1「済生会千里病院疾患群症例病歴要約到達目標」参照）であることが必要です。
 - ii) 29 病歴要約の内科専門医ボードによる査読・形成的評価後の受理（アクセプト）
 - iii) 所定の 2 編の学会発表または論文発表
 - iv) JMECC 受講
 - v) プログラムで定める講習会受講
 - vi) 専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いてメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）と指導医による内科専攻医評価を参照し、社会人である医師としての適性
- 2) 済生会千里内科専門研修プログラム管理委員会は、当該専攻医が上記修了要件を充足していることを確認し、研修期間修了約 1 か月前に済生会千里病院内科専門医研修プログラム管理委員会で合議のうえ統括責任者が修了判定を行います。

(5) プログラム運用マニュアル・フォーマット等の整備

「専攻医研修実績記録フォーマット」、「指導医による指導とフィードバックの記録」および「指導者研修計画（FD）の実施記録」は、専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用います。なお、「済生会千里病院内科専攻医研修マニュアル」【整備基準 44】と「済生会千里病院内科専門研修指導医マニュアル」【整備基準 45】と別に示します。

13. 専門研修プログラム管理委員会の運営計画【整備基準 34, 35, 37～39】

（P.32 「済生会千里病院内科専門研修プログラム管理委員会」参照）

- 1) 大阪府済生会千里病院内科専門研修プログラムの管理運営体制の基準
 - i) 内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。内科専門研修プログラム管理委員会は、統括責任者、プログラム管理者、事務局代表者、内科 Subspecialty 分野の研修指導責任者（診療科科長）および連携施設担当委員で構成されます。また、オブザーバーとして専攻医が委員会会議の一部に参加します（P.34 済生会千里病院内科専門研修プログラム管理委員会）

参照)。済生会千里病院内科専門研修プログラム管理委員会の事務局を、済生会千里病院専攻医研修センターにおきます。

ii) 済生会千里病院内科専門研修施設群は、基幹施設、連携施設とともに内科専門研修委員会を設置します。委員長1名(指導医)は、基幹施設との連携のもと、活動するとともに、専攻医に関する情報を定期的に共有するために、毎年6月と12月に開催する済生会千里病院内科専門研修プログラム管理委員会の委員として出席します。

基幹施設、連携施設とともに、毎年4月30日までに、済生会千里病院内科専門研修プログラム管理委員会に以下の報告を行います。

① 前年度の診療実績

- a) 病院病床数, b) 内科病床数, c) 内科診療科数, d) 1か月あたり内科外来患者数, e) 1か月あたり内科入院患者数, f) 部検数

② 専門研修指導医数および専攻医数

- a) 前年度の専攻医の指導実績, b) 今年度の指導医数/総合内科専門医数, c) 今年度の専攻医数, d) 次年度の専攻医受け入れ可能人数.

③ 前年度の学術活動

- a) 学会発表, b) 論文発表

④ 施設状況

- a) 施設区分, b) 指導可能領域, c) 内科カンファレンス, d) 他科との合同カンファレンス, e) 抄読会, f) 机, g) 図書館, h) 文献検索システム, i) 医療安全・感染対策・医療倫理に関する研修会, j) JMECC の開催.

⑤ Subspecialty 領域の専門医数

日本消化器病学会消化器専門医数、日本循環器学会循環器専門医数、日本内分泌学会専門医数、日本糖尿病学会専門医数、日本腎臓病学会専門医数、日本呼吸器学会呼吸器専門医数、日本血液学会血液専門医数、日本神経学会神経内科専門医数、日本アレルギー学会専門医(内科)数、日本リウマチ学会専門医数、日本感染症学会専門医数、日本救急医学会救急科専門医数

14. プログラムとしての指導者研修(FD)の計画【整備基準18,43】

指導法の標準化のため日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」(仮称)を活用します。

厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会の受講を推奨します。指導者研修(FD)の実施記録として、専攻医登録評価システム(J-OSLER)を用います。

15. 専攻医の就業環境の整備機能(労務管理)【整備基準40】

労働基準法や医療法を順守することを原則とします。

専門研修(専攻医)1年目、3年目は基幹施設である済生会千里病院の就業環境に、専門研修(専攻医)2年目は連携施設の就業環境に基づき、就業します(P.16-P.31「済生会千里病院内科専門研修施設群」参照)。

基幹施設である済生会千里病院の整備状況:

- ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
- ・済生会千里病院常勤医師として労務環境が保障されています。
- ・メンタルストレスに適切に対処する部署(総務課職員担当)があります。
- ・ハラスメント委員会が整備されています。
- ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
- ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。

専門研修施設群の各研修施設の状況については、「済生会千里病院内科専門研修施設群」(P.16-P.31)を参照。

また、総括的評価を行う際、専攻医および指導医は専攻医指導施設に対する評価も行い、その内容は済生会千里病院内科専門研修プログラム管理委員会に報告されるが、そこには労働時間、当直回数、給与など、労働条

件についての内容が含まれ、適切に改善を図ります。

16. 内科専門研修プログラムの改善方法【整備基準48～51】

- 1) 専攻医による指導医および研修プログラムに対する評価専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて無記名式逆評価を行います。逆評価は年に複数回行います。また、年に複数の研修施設に在籍して研修を行う場合には、研修施設ごとに逆評価を行います。その集計結果は担当指導医、施設の内科専門研修委員会、および内科専門研修プログラム管理委員会が閲覧します。また集計結果に基づき、大阪府済生会千里病院内科専門研修プログラムや指導医、あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます。
- 2) 専攻医等からの評価（フィードバック）をシステム改善につなげるプロセス 専門研修施設の内科専門研修委員会、済生会千里病院内科専門研修プログラム管理委員会、および日本専門医機構内科領域研修委員会は専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて、専攻医の逆評価、専攻医の研修状況を把握します。把握した事項については、済生会千里病院内科専門研修プログラム管理委員会が以下に分類して対応を検討します。
 - ① 即時改善を要する事項
 - ② 年度内に改善を要する事項
 - ③ 数年をかけて改善を要する事項
 - ④ 内科領域全体で改善を要する事項
 - ⑤ 特に改善を要しない事項

なお、研修施設群内で何らかの問題が発生し、施設群内で解決が困難である場合は、専攻医や指導医から日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします。

 - ・担当指導医、施設の内科専門研修委員会、済生会千里病院内科専門研修プログラム管理委員会、および日本専門医機構内科領域研修委員会は専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて専攻医の研修状況を定期的にモニタし、大阪府済生会千里病院内科専門研修プログラムが円滑に進められているか否かを判断して大阪府済生会千里病院内科専門研修プログラムを評価します。
 - ・担当指導医、各施設の内科専門研修委員会、済生会千里病院内科専門研修プログラム管理委員会、および日本専門医機構内科領域研修委員会は専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて担当指導医が専攻医の研修にどの程度関与しているかをモニタし、自律的な改善に役立てます。状況によって、日本専門医機構内科領域研修委員会の支援、指導を受け入れ、改善に役立てます。
- 3) 研修に対する監査（サイトビジット等）・調査への対応

済生会千里病院専攻医研修センターと済生会千里病院内科専門研修プログラム管理委員会は、大阪府済生会千里病院内科専門研修プログラムに対する日本専門医機構内科領域研修委員会からのサイトビジットを受け入れ対応します。その評価を基に、必要に応じて大阪府済生会千里病院内科専門研修プログラムの改良を行います。

大阪府済生会千里病院内科専門研修プログラム更新の際には、サイトビジットによる評価の結果と改良の方策について日本専門医機構内科領域研修委員会に報告します。

17. 内科専門研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件【整備基準33】

やむを得ない事情により他の内科専門研修プログラムの移動が必要になった場合には、適切に専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて大阪府済生会千里病院内科専門研修プログラムでの研修内容を遅滞なく登録し、担当指導医が認証します。これに基づき、済生会千里病院内科専門研修プログラム管理委員会と移動後のプログラム管理委員会が、その継続的研修を相互に認証することにより、専攻医の継続的な研修を認めます。他の内科専門研修プログラムから大阪府済生会千里病院内科専門研修プログラムへの移動の場合も同様です。

他の領域から大阪府済生会千里病院内科専門研修プログラムに移行する場合、他の専門研修を修了し新たに内科

領域専門研修をはじめる場合、あるいは初期研修における内科研修において専門研修での経験に匹敵する経験をしている場合には、当該専攻医が症例経験の根拠となる記録を担当指導医に提示し、担当指導医が内科専門研修の経験としてふさわしいと認め、さらに大阪府済生会千里病院内科専門研修プログラム統括責任者が認めた場合に限り、専攻医登録評価システム（J-OSLER）への登録を認めます。症例経験として適切か否かの最終判定は日本専門医機構内科領域研修委員会の決定によります。

疾病あるいは妊娠・出産、産前後に伴う研修期間の休止については、プログラム終了要件を満たしており、かつ休職期間が6ヶ月以内であれば、研修期間を延長する必要はないものとします。これを超える期間の休止の場合は、研修期間の延長が必要です。短時間の非常勤勤務期間などがある場合、按分計算（1日8時間、週5日を基本単位とします）を行なうことによって、研修実績に加算します。留学期間は、原則として研修期間として認めません。

18. 済生会千里病院内科専門研修施設群（標準的なプログラム）

済生会千里病院内科専門研修施設群研修施設

表1. 各研修施設の概要

	病院	病床数	内科系病床数	内科系診療科数	内科指導医数	総合内科専門医数	内科剖検数
基幹施設	大阪府済生会千里病院	343	75	5	11	10	2
連携施設	大阪大学医学部附属病院	1,086	273	10	107	66	7
連携施設	国立病院機構大阪刀根山医療センター	410	360	3	16	11	14
連携施設	市立豊中病院	599	198	7	33	24	6
連携施設	市立池田病院	364	194	8	25	13	8
連携施設	市立吹田市民病院	431	175	7	29	17	11
連携施設	箕面市立病院	317	150	5	21	14	12
連携施設	市立伊丹病院	414	176	9	31	17	13
連携施設	近畿中央病院	445	177	7	19	8	9
連携施設	西宮市立中央病院	193	96	4	12	10	1
研修施設合計					304	190	83

表2 各内科専門研修施設の内科13領域の研修の可能性

病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
大阪府済生会千里病院	○	○	○	○	○	△	○	△	△	○	○	△	○
大阪大学医学部附属病院	△	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	△	△
国立病院機構大阪刀根山医療センター	△	×	×	×	×	×	○	×	○	△	△	△	×
市立豊中病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
市立池田病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	○
市立吹田市民病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
箕面市立病院	○	○	○	○	○	△	△	○	○	△	×	○	×
市立伊丹病院	○	○	○	○	○	△	○	○	×	○	○	○	○
近畿中央病院	△	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○
西宮市立中央病院	△	○	○	○	○	×	○	×	×	△	△	×	×

各研修施設での内科13領域における診療経験の研修可能性を3段階(○、△、×)に評価しました。<○:研修できる、△:時に経験できる、×:ほとんど経験できない>

専門研修施設群の構成要件 【整備基準 25】

内科領域では、多岐にわたる疾患群を経験するための研修は必須です。済生会千里病院内科専門研修施設群研修施設は大阪府および兵庫県伊丹市と西宮市の医療機関から構成されています。

済生会千里病院は、大阪府豊能医療圏の中心的な急性期病院です。そこで研修は、地域における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験を研修します。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につけます。

連携施設には、内科専攻医の多様な希望・将来性に対応し、地域医療や全人的医療を組み合わせて、急性期医療、慢性期医療および患者の生活に根ざした地域医療を経験できることを目的に、高次機能・専門病院である大阪大学医学部附属病院、大阪刀根山医療センター、大阪府豊能医療圏の地域基幹病院である市立池田病院、市立吹田市民病院、箕面市立病院、兵庫県での地域貢献の可能な市立伊丹病院、公立学校共済組合近畿中央病院、西宮市立中央病院の8病院構成しています。

専門研修施設（連携施設）の選択

専攻医1年目の秋に専攻医の希望・将来像、研修達成度およびメディカルスタッフによる内科専門研修評価などを基に、2年目の研修施設を調整し決定します。専攻医3年目の1年間はまた済生会千里病院で研修をしますが、研修達成度によっては、連携施設研修の調整が必要な場合もあります。

専門研修施設群の地理的範囲 【整備基準 26】

大阪府豊能医療圏と兵庫県伊丹市と西宮市の病院で連携を構成しています。連携施設研修中では、済生会千里病院研修センターとの連絡は、インターネットメール、zoom、Skype等でのSNSツールを利用する。

1) 専門研修基幹施設

済生会千里病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none">初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。研修に必要な図書室とインターネット環境があります。常勤医師として労務環境が保障されています。メンタルストレスに適切に対処する部署（職員のメンタル管理の仕事を中心とする臨床心理士1名が配属）があります。ハラスマント委員会が院内に設置されています。女性専攻医が安心して勤務できるように、女医休憩室、女医当直室、更衣室、シャワー室が整備されています。管理棟内に職員家族用の院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none">指導医は11名在籍しています。内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長）、プログラム管理者（消化器内科部長）（ともに内科指導医））にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と専攻医研修センターを設置します。医療倫理研修会（2018年度実績1回）・医療安全研修会（2018年度実績2回）・感染対策研修会（2018年度実績2回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2020年度予定）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。CPCを定期的に開催（2018年度の内科系 CPC の実績合計3例）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。地域参加型のカンファレンス（2018年度実績：千里診療連携セミナー 4回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。

	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に専攻医研修センターが対応します。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 8 分野（総合内科、消化器、循環器、代謝、腎臓、呼吸器、膠原病、救急）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうち 56 疾患群について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（2019 年度 2 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究に必要な図書室を整備しています。日本語文献検索に必要な医学中央雑誌の web 版（医中誌 web）に契約しています。「メディカルオンライン」も利用でき、医学文献の検索全文閲覧が可能です。英語の文献検索はインターネット環境で PubMed などで検索し、図書室から近畿病院図書室協議会の KITOcat のシステムを利用して文献を取り寄せることができます。その他、臨床上の疑問に関しては英語で「UpToDate」が、日本語では「今日の臨床サポート」が使用できます。 当院における研究の発表の場として、千里医学雑誌を毎年発行しています。 当院における臨床研究をまとめて海外の英文雑誌にも発表しています。（2013 年度 1 報、2014 年度実績 1 報） ・外部委員も参加する倫理委員会を設置し、定期的に開催（2018 年度実績 6 回）しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催（2018 年度実績 6 回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に継続して学会発表（2018 年度実績 5 題）を行っています。
指導責任者	<p>増田 栄治</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>済生会千里病院は、大阪府豊能医療圏の中心的な急性期病院の一つであり、豊能医療圏・近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。当院の特色として千里救命救急センターを擁しており、同センター経由で内科に入院する患者も多いため、とくに消化器、循環器の救急疾患が多数経験可能です。主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医を目指して研修していただきます。</p>
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 2 名、日本消化器病学会消化器指導医 2 名、日本消化器内視鏡学会指導医 1 名、日本肝臓学会指導医 1 名、日本超音波医学会指導医 3 名、日本呼吸器学会指導医 2 名、日本内科学会総合内科専門医 10 名、日本消化器病学会消化器専門医 5 名、日本循環器学会循環器専門医 8 名、日本糖尿病学会専門医 2 名、日本腎臓病学会専門医 1 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名、日本血液学会血液専門医 0 名、日本神経学会神経内科専門医 0 名、日本アレルギー学会専門医（内科）0 名、日本リウマチ学会専門医 1 名、日本感染症学会専門医 0 名、日本救急医学会救急科専門医 8 名、ほか
外来・入院患者数 (内科)	新外来患者数 1847 名（1 ヶ月平均）（2019 年度） 新入院患者数 754 名（1 ヶ月平均）（2019 年度）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、当院において研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域にある 56 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設

日本肝臓学会認定施設
日本消化管学会胃腸科指導施設
日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設
日本心血管インターベンション治療学会研修施設
日本脈管学会認定研修指定施設
日本高血圧学会専門医認定施設
日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設
日本呼吸器学会認定施設
日本リウマチ学会教育施設
日本糖尿病学会認定教育施設
日本小児科学会小児科専門医研修施設
日本外科学会外科専門医制度修練施設
日本消化器外科学会専門医修練施設
日本病態栄養学会認定栄養管理・NST実施施設
日本臨床栄養代謝学会・NST稼動施設
日本栄養療法推進協議会認定NST稼動施設
日本大腸肛門病学会認定施設
日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会ストーマ認定施設
日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会
エキスパンダー実施施設
日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会
インプラント実施施設
日本乳がん検診精度管理中央機構 マンモグラフィ検診施設
日本がん治療認定医機構認定研修施設
日本整形外科学会専門医制度研修施設
日本脊椎脊髄病学会 椎間板酵素注入療法実施可能施設
日本泌尿器科学会基幹教育施設
日本産科婦人科内視鏡学会認定研修施設
日本産科婦人科学会指定専門医研修連携施設
日本口腔外科学会認定研修施設
日本麻酔科学会麻酔科認定病院
日本医学放射線学会認定放射線科専門医修練機関
日本臨床細胞学会認定施設
日本病理学会研修登録施設
日本救急医学会指導医指定施設
日本集中治療医学会専門医研修施設
日本外傷学会外傷専門医研修施設
日本急性血液浄化学会認定指定施設

<2020.4.1 現在>

済生会千里病院内科系の各診療科の特徴を以下に示します。

診療科の特徴	主な診療実績	施設認定
<p>消化器内科</p> <p>日本消化器病学会専門医、日本肝臓学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医の資格取得をめざし、消化器診療全般について習熟することを目的とする。現在スタッフは7名の体制である。高度な処置も含めてまんべんなく研修することができる。救命センターが併設されているため、消化管出血、閉塞性黄疸、重症例を多く経験できる。FNA 対応超音波内視鏡、造影ガイド下穿刺対応超音波装置、カプセル内視鏡、小腸内視鏡など機器も充実している。症例カンファレンスは症例検討会、内視鏡検討会、文献紹介抄読会がそれぞれ週に1回づつ、消化器内科、外科、放射線科、病理部合同のカンファレンスが週に1回ある。また、プログラムの到達目標は学会専門医よりも高いレベルに設定し、高度な診療技術を身につけることを目指している。</p>	<p>上部 ESD 実施件数：38 下部 ESD 実施件数：29 下部EMR/ ポリペク実施件数：451 胆嚢内視鏡 実施件数：161 小腸内視鏡 実施件数：12 RFA/PEIT/ 肝生検/ 腫瘍生検：33 EUS-FNA : 10</p> <p>(2018 年度データ)</p>	<p>○日本消化器病学会専門医制度認定施設 ○日本肝臓学会特別連携施設 ○日本消化器内視鏡学会認定指導施設 ○日本消化管学会指導施設 ○日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設</p>
<p>循環器内科</p> <p>循環器急性疾患は千里救命救急センターと連携して診療している。長期予後を見据えた心大血管疾患リハビリテーションも積極的に行っている。現在スタッフ6名・後期研修医1名の体制である。</p> <p>心臓超音波検査・各種負荷試験・心臓核医学検査・心臓CT/MRI・心臓カテーテル検査/治療・電気生理学的検査/ペースメーカー治療・心臓リハビリテーションに習熟し、EBM をふまえたうえで個々の患者に最適の治療を提供することを目標とする。</p> <p>国内外での学会発表・論文作成等も積極的に行い、内科学会専門医取得後は、循環器専門医の取得を目指す。</p>	<p>冠動脈造影 CT : 286 大血管 CT : 83 心臓 MRI : 7 心筋シンチグラフィー : 376 PCI (経皮的冠動脈形成術) 件数 : 323 CAG (冠動脈造影) 件数 : 363 ペースメーカー 件数 : 39 RFCA (高周波カテーテル心筋焼灼術) 件数 : 12 心臓 CT 実施件数 : 259 経皮的動脈形成術 : 22 ペースメーカー新規 : 39 ペースメーカー電池交換 : 8 カテーテルアブレーション : 9</p> <p>(2018 年データ)</p>	<p>○日本循環器学会研修施設 ○日本心血管インターベンション治療学会研修施設 ○日本脈管学会認定研修指定施設 ○日本超音波医学会研修施設 ○日本核医学会教育病院 ○日本高血圧学会専門医認定施設</p>
<p>呼吸器内科</p> <p>当院は大阪府がん拠点病院に指定されており、胸部XP、CT、PET/CTなどにより的確な画像診断をした上で、気管支鏡検査等にて診断し、近年進歩の著しい分子標的薬や抗がん剤による最先端の治療を行っている。同時に感染性呼吸器疾患や間質性肺炎、COPD、気管支喘息などの疾患に対し、重症疾患に関しては救命センター、呼吸ケアサポートチームのコメディカルスタッフとも協力・</p>	<p>BF (気管支内視鏡) 件数 : 43 ケモ件数 : 68</p> <p>(2018 年データ)</p>	<p>○日本呼吸器学会認定施設 ○日本呼吸器内視鏡学会認定施設</p>

	<p>連携して、IPPV、NPPV、NHFによる呼吸管理を施行した上で、抗生素やステロイドによる治療を積極的に施行している。またCOPD、気管支喘息に対し、ガイドラインに従いICSをはじめとする各種吸入薬やLTRAによる加療をしている。</p> <p>以上、当院ではがん・非がんを問わず、多岐に渡る症例が経験でき、また学会発表も積極的に行い、日本呼吸器学会指導医の指導のもと、内科専門医をはじめ呼吸器専門医の取得を目指す。</p>		
糖尿病内科	<p>増加が著しい糖尿病の病態生理の把握、各種合併症の精査、重症度による適切な治療法の選択を行えるように研修する。</p> <p>日本糖尿病学会認定専門医取得を目標とする。食事療法、運動療法の指導が出来るようになり、種類が増加している経口糖尿病薬やインスリン、GLP-1誘導体,を用いた治療の実践を行う。週1回の症例検討会行っている。糖尿病、内分泌の新しい情報の勉強会も行ってこなっている。</p> <p>多職種よりなる糖尿病チーム医療の中心となる指導力を修得する。</p>	<p>自己注射指導管理料：903 他科の入院患者の糖尿病管理者数： 169</p> <p>(2018年データ)</p>	<p>○日本糖尿病学会認定教育施設</p>
免疫・アレルギー内科	<p>一般には難解とされる膠原病・アレルギー疾患であるが、近年の基礎研究・テクノロジーの進歩により疾患概念や診療体系も大きく変わった。また、免疫疾患診療は鑑別診断だけでなく、複数の臓器合併症の管理をすることが必要とされる。</p> <p>当院では専門医の指導のもと、各診療科（特に呼吸器内科）とも連携を取りながら、免疫疾患の診療に当たる。関連学会活動や大阪大学との共同臨床研究も積極的に行うことにより専門医を養成すると共に、単にガイドラインを踏襲するのではなく自分で多面的に考え判断できる診療能力を持つ医師を養成する。</p>	<p>生物学的製剤：24件 臨床研究：1件</p>	<p>○日本リウマチ学会認定教育施設 ○日本アレルギー学会準認定教育施設</p>

2) 専門研修連携施設

1. 大阪大学医学部附属病院

認定基準 【整備基準24】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 研修に必要な図書館とインターネット環境があります。 非常勤医員として労務環境が保障されています。 メンタルストレスに適切に対処する施設（大阪大学キャンパスライフ健康支援センター）が、大阪大学吹田キャンパス内（病院と同敷地内）にあります。 ハラスメント対策委員会が院内総務課に設置されています。また、ハラスマント相談室が大阪大学吹田キャンパス内（病院と同敷地内）に設定されており、病院職員の一人が相談員として従事しており、院内職員も利用可能です。 女性専攻医が安心して勤務できるように、ロッカー、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 病院と同敷地内に大阪大学学内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準24】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> 指導医は107名在籍しています。 プログラム管理委員会および研修委員会を設置しています。 プログラム管理委員会は、基幹施設および連携施設の研修委員会と連携をはかり、専攻医の研修を管理します。 医療倫理・医療安全・感染対策の各講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 CPC（内科系）を基本的に毎月開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 プログラムに登録している全ての専攻医にJMECC受講の機会を与え、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 施設実地調査に対して、研修委員会が真摯に対応します。
認定基準 【整備基準24】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13分野のうち11分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。また、70疾患群のうち35以上の疾患群について研修できる症例を診療しています。専門研修に必要な剖検を適切に行います。
認定基準 【整備基準24】 4) 学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> 臨床研究が定常的に行われており、臨床研究のための講習会も定期的に開催されています。 大阪大学臨床研究倫理委員会（認定番号CRB5180007）、介入研究倫理委員会、観察研究倫理委員会が設置されています。 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	大阪大学医学部附属病院内科専門研修プログラム プログラム統括責任者、研修委員会委員長 坂田泰史 プログラム管理者 竹原徹郎
指導医数（常勤）	日本内科学会指導医 107名 総合内科専門医 66名 内科学会指導医のうち、以下の専門医が定常的に在籍しています。 日本消化器病学会消化器専門医 日本肝臓病学会専門医

	日本循環器学会循環器専門医 日本糖尿病学会専門医 日本内分泌学会専門医 日本腎臓病学会専門医 日本呼吸器学会呼吸器専門医 日本血液学会血液専門医 日本神経学会神経内科専門医 日本アレルギー学会専門医（内科） 日本リウマチ学会専門医 日本老年病医学会専門医 JMECCディレクター 1名 JMECCインストラクター 12名
外来・入院患者数 (内科系)	2018年度 外来患者延べ数 219,844名 内科系病床数 273床 内科剖検数 12 入院患者数 (Osaka University Hospital Annual Report 2018) 循環器内科 1,156名、腎臓内科 323名、消化器内科 1,350名、糖尿病・内分泌・代謝内科 511名、呼吸器内科 754名、免疫内科 286名、血液・腫瘍内科 480名、老年 ・総合内科 321名、神経内科・脳卒中科 588名
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある内科11領域、50疾患群の症例を経験することができます。このほか、ICUと連携してICUのローテーション研修を経験することができるです。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療、診療連携	急性期医療だけでなく、慢性疾患、希少疾患、さらに高度先進医療を経験できます。また、豊能医療圏における地域医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本国内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本循環器学会専門医研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本国内内分泌学会内分泌科認定教育施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定施設 日本腹膜透析医学会認定教育研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本血液学会研修施設 日本国内神経学会専門医制度認定教育施設 日本国アレルギー学会認定教育施設 日本国リウマチ学会教育施設 日本国老年病医学会認定教育施設 日本国高血圧学会専門医認定施設

2. 国立病院機構大阪刀根山医療センター

認定基準 【整備基準24】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> 初期臨床研修制度協力型研修指定病院です。 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 非常勤医師として労務環境が保障されています。 メンタルストレスに適切に対処する部署（窓口：管理課）があります。 ハラスマントに適切に対処する部署（窓口：管理課）があります。 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワーランド、当直室が整備されています。 敷地内に院内保育所があり、利用可能です（定期利用のみ）。
認定基準 【整備基準24】 2) 専門研修プログラムの環境	<p>指導医は16名在籍しています（2021年4月現在）</p> <ul style="list-style-type: none"> 内科専攻医研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 医療倫理、医療安全、感染対策講習会を定期的に開催（2020年度実績12回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 CPCを定期的に開催（2020年度実績5回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 地域参加型のカンファレンス（病病、病診連携カンファレンス2019年度実績11回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準24】 3) 診療経験の環境	<p>カリキュラムに示す内科領域13分野のうち2分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。</p> <p>専門研修に必要な剖検（2019年度14体）を行っています。</p>
認定基準 【整備基準24】 4) 学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表（2017年度実績1演題）をしています。
指導責任者	<p>三木 啓資（内科学会指導医/総合内科専門医。呼吸器学会指導医/専門医）</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>国立病院機構大阪刀根山医療センターは、豊中市にある呼吸器疾患と神経疾患の専門病院であり、基幹施設。大阪大学医学部付属病院と連携して内科専門研修を行います。必要に応じて可塑性のあるプログラムで、地域医療にも貢献できる内科専門医の育成を目指します。</p>
指導医数（常勤）	<p>日本内科学会指導医 16名</p> <p>日本内科学会総合内科専門医 11名</p> <p>日本呼吸器学会呼吸器専門医 8名</p> <p>日本神経学会神経内科専門医 8名</p>
外来・入院患者数（内科系）	<p>外来患者45,538名（平均延数3,795／月）</p> <p>新入院患者3,463名（平均数288／月）</p> <p>（2018年）</p>
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある2領域、15疾患群の症例を経験することができます。（詳細はお問い合わせください）

経験できる技術・技能	技術。技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術。技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、高齢化社会に対応した地域に根ざした医療、慢性疾患の診療を通して病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本リウマチ学会教育施設 など

3. 市立豊中病院

認定基準 【整備基準23】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 豊中市非常勤医師として労務環境が保障されています。 メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ハラスマント委員会が病院内に整備されています。 女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準23】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> 指導医は33名在籍しています（2020年4月1日現在）。 内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置します。 医療倫理・医療安全・感染対策の各講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 CPCを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 地域参加型のカンファレンス（北大阪内科研究会、豊中糖尿病勉強会、北摂腎疾患談話会、豊中消化器病懇話会、北摂内視鏡治療研究会、待兼山神経懇話会、大阪血液疾患談話会、中之島循環器代謝フォーラムなど）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講（2020年度開催実績1回）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 日本専門医機構による施設実地調査に教育研修センターが対応します。
認定基準 【整備基準23/31】 3) 診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 70疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。 専門研修に必要な剖検（2018年度13体、2019年度2体、2020年度6体）を行っています。
認定基準 【整備基準23】 4) 学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> 臨床研究に必要な図書室、臨床研究センターなどを整備しています。 倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 治験審査委員会を設置し、定期的に受託研究審査会を開催しています。

	<ul style="list-style-type: none"> ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	<p>岩橋博見（副院長、内科主任部長、臨床研究センター長） 【内科専攻医へのメッセージ】 市立豊中病院は、大阪府豊能医療圏の中心的な急性期病院であり、豊能医療圏、近隣医療圏にある連携施設で内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。 主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景。療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。</p>
指導医数 (常勤内科医) 2020年4月1日現在	<p>日本内科学会指導医 33名 日本内科学会総合内科専門医 24名 日本消化器病学会消化器専門医 8名 日本肝臓病学会専門医 6名 日本循環器学会循環器専門医 5名 日本糖尿病学会専門医 2名 日本内分泌学会専門医 2名 日本腎臓病学会専門医 4名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 4名 日本血液学会血液専門医 3名 日本神経学会神経内科専門医 3名 日本アレルギー学会専門医 1名</p>
外来・入院患者数 (内科系)	<p>外来延患者数 109,675名/年（2019年度） 入院件数 6,441件/年（2019年度）</p>
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術。技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療、診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	<p>日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本脳卒中学会研修教育施設 日本透析医学会専門医制度認定施設</p>

	日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 など
--	---

4. 市立池田病院

認定基準 【整備基準24】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・医師臨床研修制度基幹型臨床研修病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・池田市非常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（臨床心理士担当）があります。 ・ハラスマント委員会が池田市役所に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準24】 2) 専門研修プログラムの環境	<p>日本内科学会指導医は25名在籍しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内科専門研修プログラム管理委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、連携施設に設置されている研修委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2019年度実績2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPCを定期的に開催（2019年度実績8回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（病病・病診連携カンファレンス2019年度実績見込200回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準24】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域15領域のうち12領域（アレルギー、膠原病、感染症を除く）では定常的に、アレルギー、感染症、膠原病領域も非常勤医と連携して専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準24】 4) 学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表（2019年度実績3演題）をしています。
指導責任者	澤井 良之（1名） 【内科専攻医へのメッセージ】 市立池田病院は、大阪府豊能医療圏の中心的な急性期病院であり、同じ医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い、GeneralityとSubspecialityとのどちらも追及できる可塑性があって、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。
指導医数（常勤）	日本内科学会指導医 25名 日本内科学会総合内科専門医 13名 日本消化器病学会消化器専門医 10名 日本肝臓学会肝臓専門医 7名 日本循環器学会循環器専門医 5名 日本内分泌学会内分泌専門医 3名 日本糖尿病学会糖尿病専門医 4名 日本腎臓学会腎臓専門医 2名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 2名 日本血液学会血液専門医 1名 日本神経学会神経内科専門医 2名 ほか
外来・入院	外来延患者数 360人/日、新入院患者数 441人/月（2019年度）

患者数（内科系）	
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある15領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	厚生労働省臨床研修指定病院（医科） 卒後臨床研修評価機構（JCEP）認定病院 日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度認定指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会教育関連施設 日本神経学会専門医制度認定准教育施設 日本病理学会病理専門医制度研修登録施設A 日本臨床細胞学会施設 日本アレルギー学会認定准教育施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本静脈経腸栄養学会NST（栄養サポートチーム）稼動施設 日本栄養療法推進協議会認定NST（栄養サポートチーム）稼動施設 日本静脈経腸栄養学会実施修練認定教育施設 日本緩和医療学会認定研修施設

5. 市立吹田市民病院

認定基準 【整備基準23】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> 卒後臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 医師（非常勤職員）として労務環境が保障されています。 メンタルストレスに適切に対処する部署（病院総務室厚生担当、公認心理師の配置）があります。 ハラスマント相談窓口が病院総務室内に整備されています。 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準23】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> 指導医は29名在籍しています（下記）。 内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（病院長）（内科認定医かつ指導医）、プログラム管理者（内科部長）（総合内科専門医かつ指導医））にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置します。

	<ul style="list-style-type: none"> ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2019年度実績6回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2019年度実績9回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（北大阪内科カンファレンス等）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に内科専門研修プログラム管理委員会が対応します。
認定基準 【整備基準23/31】 3) 診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野（少なくとも7分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ・70疾患群のうち膠原病をのぞく全疾患群（少なくとも35以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ・専門研修に必要な剖検（2019年度5体、2018年度11体、2017年度実績8体）を行っています。
認定基準 【整備基準23】 4) 学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2019年度実績12回）しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催（2019年度実績12回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表（2019年度実績5演題、2018年度実績4演題、2017年度実績3演題）を行っています。
指導責任者	<p>火伏俊之 【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>市立吹田市民病院は、大阪県豊能医療圏の中心的な急性期病院であり、豊能医療圏。近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。</p> <p>主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景。療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。</p>
指導医数 (内科系常勤医)	<p>日本内科学会指導医 29名 日本内科学会総合内科専門医 18名 日本消化器病学会消化器専門医 8名 日本肝臓学会専門医 6名 日本循環器学会循環器専門医 4名 日本糖尿病学会専門医 2名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 3名 日本血液学会血液専門医 6名 日本神経学会神経内科専門医 3名 日本アレルギー学会専門医（内科） 2名 日本リウマチ学会リウマチ専門医 2名 ほか</p>
外来・入院患者数	<p>外来患者18,204名（1ヶ月平均） 入院患者872名（1ヶ月平均）</p>
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。

経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療、診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本不整脈学会 日本心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医関連認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本超音波学会認定超音波専門医研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本臨床細胞学会認定施設 日本がん治療認定機構認定研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設 大阪府癌診療拠点病院指定書 卒後臨床研修制度基幹型研修指定病院 など

6. 箕面市立病院

認定基準 【整備基準24】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 任期付職員として労務環境が保障されています。 メンタルストレスに適切に対処する部署（事務局病院人事室）があります。 ハラスマント委員会が整備されています。 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準24】 2) 専門研修プログラムの環境	<p>指導医は21名在籍しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> 内科専攻医研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し基幹施設及び連携施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2019年度実績5回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 CPC を定期的に開催（2019年度実績7回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 地域参加型のカンファレンス（箕面市病診連携懇談会。研修会、箕面市立病院登録医意見会研修会）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準24】 3) 診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラムに示す内科領域13分野のうち13分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 専門研修に必要な剖検（2019年度実績12体、2018年度実績12体、2017年度実績

	8体、2016年度実績10体、2015年度実績12体、2014年度実績11体)を行っています。
認定基準 【整備基準24】 4) 学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています（2019年度実績6回）。 ・治験審査委員会を設置し、定期的に受託研究審査会を開催しています（2018年度実績1回、2019年度実績なし）。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表をしています（2018年度実績8演題）。
指導責任者	<p>金井秀行 【内科専攻医へのメッセージ】 箕面市立病院は、豊能医療圏の中心的な急性期病院のひとつであり、大阪大学医学部附属病院および、豊能医療圏の病院などと連携して内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医の育成を目指します。</p>
指導医数（常勤）	日本内科学会指導医 21名 日本内科学会総合内科専門医 15名 日本消化器病学会消化器病専門医 10名 日本肝臓病学会肝臓専門医 7名 日本循環器学会循環器専門医 3名 日本糖尿病学会専門医 3名 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 2名 日本腎臓病学会腎臓専門医 2名（内科 0名） 日本呼吸器学会呼吸器専門医 0名 日本血液学会血液専門医 4名 日本神経学会神経内科専門医 3名 日本アレルギー学会専門医 0名 日本リウマチ学会リウマチ専門医 1名（内科 0名） 日本感染症学会感染症専門医 0名 日本救急医学会救急科専門医 0名 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 6名
外来・入院患者数 (内科系)	外来延患者数 49,970名/年（2019年度） 入院延患者数 43,780名/年（2019年度）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会循環器専門医研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本血液学会血液研修施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本肝臓学会認定施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本静脈経腸栄養学会NST稼働認定施設 など

7. 市立伊丹病院

認定基準 【整備基準23】 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 伊丹市非常勤医師として労務環境が保障されています。 メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ハラスメント委員会が伊丹市役所に整備されています。 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準23】 2)専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> 指導医は31名在籍しています。 内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（診療部長）（内科指導医））にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置しています。 医療倫理、医療安全、感染対策講習会を定期的に開催（2019年度実績5回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2019年度予定）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 CPCを定期的に開催（2019年度実績12回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 地域参加型のカンファレンス（伊丹市医師会内科医会循環器フォーラム、伊丹市医師会内科医会糖尿病フォーラム、伊丹市医師会内科医会呼吸器疾患フォーラム、伊丹市医師会消化器勉強会、外科医会合同講演会、伊丹市医師会内科医会講演会、登竜門カンファレンス、神戸GMカンファレンスなど、；2019年度実績25回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講（2016年9月に第1回を開催、2017年5月に第2回、2018年5月に第3回を開催、2019年5月に第4回を開催）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。
認定基準 【整備基準23/31】 3)診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラムに示す内科領域13分野のうち11分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 70疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも58以上の疾患群）について研修できます（上記）。 専門研修に必要な剖検（2018年度実績10体、2019年度13体）を行っています。
認定基準 【整備基準23】 4)学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> 臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 倫理委員会を設置し、定期的に開催（2019年度実績9回）しています。 治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催（2019年度実績11回）しています。 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表（2019年度実績3演題）をしています。
指導責任者	<p>村山洋子 【内科専攻医へのメッセージ】 市立伊丹病院は、兵庫県阪神医療圏の中心的な急性期病院であり、阪神医療圏、近隣医療圏にある連携施設。特別連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。 主担当医として、入院から退院（初診、入院～退院、通院）まで経時に、診断、治療の流れを通じて、社会的背景、療養環境調整をも包括する全人的医療を</p>

	実践できる内科専門医になります。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 31 名, 日本内科学会総合内科専門医 17 名, 日本消化器病学会消化器指導医 4 名, 日本消化器病学会消化器専門医 7 名, 日本消化器内視鏡学会指導医 4 名, 日本消化器内視鏡学会専門医 7 名, 日本肝臓学会指導医 1 名, 日本肝臓学会専門医 3 名, 日本循環器学会循環器専門医 4 名, 日本呼吸器学会呼吸器指導医 2 名, 日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名, 日本血液学会血液指導医 2 名, 日本血液学会血液専門医 4 名, 日本糖尿病学会指導医 1 名, 日本糖尿病学会専門医 1 名, 日本アレルギー学会指導医 (内科) 1 名, 日本リウマチ学会指導医 1 名, 日本腎臓病学会専門医 1 名, 日本老年医学会指導医 1 名, 日本臨床腫瘍学会指導医 1 名, 暫定指導医 1 名、専門医 1 名 ほか
外来。入院患者数	外来患者 17,442 名 (1 ヶ月平均) 入院患者 864 名 (1 ヶ月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術。技能	技術。技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術。技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療。 診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診。病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 臨床研修病院 (基幹型) 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本脾臓学会認定施設 日本呼吸器学会専門医制度認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本輸血細胞治療学会認定医制度指定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本高血圧学会認定施設 日本老年医学会認定施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本リウマチ学会認定教育施設 日本循環器学会専門医制度研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本臨床腫瘍学会専門医制度研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本超音波医学会専門医研修施設 日本人間ドック学会専門医制度研修関連施設 日本老年医学会認定施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 など

8. 公立学校共済組合近畿中央病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 公立学校共済組合近畿中央病院非常勤医師として労務環境が保障されています。 メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ハラスメント委員会が整備されています。
--------------------------------	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準24】 ②専門研修プログラムの環境	<p>内科学会 指導医は19名在籍しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内科専攻医研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2019年度実績各2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPCを定期的に開催（2019年度実績9回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準24/31】 ③診療経験の環境	<p>カリキュラムに示す内科領域13分野のうち12分野（血液を除く）では定常に専門研修が可能な症例数を診療しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門研修に必要な剖検（2017年度13体、2018年度9体、2019年度9体）を行っています。
認定基準 【整備基準24】 ④学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2019年度実績5回）しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に治験委員会を開催（2019年度実績12回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表を行っています。
指導責任者	<p>上道知之 【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>公立学校共済組合近畿中央病院は、阪神北医療圏の中心的な急性期病院であり、近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。</p>
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医19名、日本内科学会総合内科専門医8名、日本循環器学会循環器専門医6名、日本消化器病学会消化器専門医4名、日本呼吸器学会呼吸器専門医4名、日本神経学会神経内科専門医3名、日本腎臓病学会腎臓専門医3名、日本肝臓学会肝臓専門医2名、日本内分泌学会内分泌専門医1名、日本糖尿病学会糖尿病専門医1名、ほか
外来・入院患者数	<p>外来延患者数 71,958名/年（2019年度）</p> <p>入院延患者数 55,043名/年（2019年度）</p>
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	<p>日本内科学会認定医制度教育病院</p> <p>日本循環器学会認定循環器専門医研修施設</p>

	日本インターベンション治療学会研修関連施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医制度認定教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本アレルギー学会認定教育施設など
--	---

9. 西宮市立中央病院

認定基準 【整備基準23】 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 西宮市非常勤医師として労務環境が保障されています。 メンタルストレスに適切に対処する部署（人事給与課職員担当）があります。 ハラスマント委員会が院内に整備されています。 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
認定基準 【整備基準23】 2)専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> 指導医は12名在籍しています。 内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長）（内科指導医））にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 基幹施設内に、研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置しています。 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を院内で定期的に開催（2019年度実績6回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 研修施設群合同カンファレンスに参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 CPCを院内で定期的に開催（2019年度実績1回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 地域参加型のカンファレンス（西宮市地域医療連携セミナー、院内感染地域連携カンファレンス、院内感染対策研修会、医療安全対策研修会、接遇研修会など；2019年度実績12回）を院内で定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 日本専門医機構による施設実地調査には、内科専門研修委員会が対応します。
認定基準 【整備基準23/31】 3)診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラムに示す内科領域13分野のうち11分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 70疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも58以上の疾患群）について研修できます（上記）。 専門研修に必要な剖検（2019年度1体）を行っています。
認定基準 【整備基準23】 4)学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> 臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 倫理委員会を設置し、定期的に開催（2019年度実績7回）しています。 治験審査委員会を設置し、定期的に開催（2019年度実績10回）しています。 日本内科学会講演会あるいは同地方会に定期的に演題を提出しています。
指導責任者	小川弘之

	<p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>西宮市立中央病院の内科は、呼吸器内科・消化器内科・循環器内科・糖尿病内分泌内科の 4 つの部門でそれぞれの分野における学会の研修指定病院としての資格を有し、専門分野の研修ができるとともに、市民病院の内科として市民のプライマリケアを担う立場にあり、市民生活の身近な問題に接し、地域医療を支える医療の基礎を身につけてもらいます。主治医として入院から退院まで、さらには引き続いた外来通院治療を担当することにより、疾患をもつ患者さんの全人的医療の実践できる内科専門医になってもらいます。</p>
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 10 名、日本内科学会総合内科専門医 10 名、 日本消化器病学会指導医 2 名、日本消化器病学会専門医 3 名、 日本消化器内視鏡学会指導医 1 名、日本消化器内視鏡学会専門医 3 名、日本肝臓学会指導医 1 名、日本肝臓学会専門医 3 名、 日本循環器学会循環器専門医 5 名、 日本呼吸器学会呼吸器指導医 2 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 5 名、 日本呼吸器内視鏡学会専門医 2 名、日本内分泌学会専門医 1 名、 日本糖尿病学会専門医 4 名、日本緩和医療学会専門医 1 名 ほか
外来・入院患者数	外来患者 406 名（1 日平均） 入院患者 126 名（1 日平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育関連病院 臨床研修病院（連携型） 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医制度認定教育施設 日本高血圧学会専門医認定施設 循環器専門医研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 など

20. 済生会千里病院内科専門研修プログラム管理委員会

(令和3年4月現在)

済生会千里病院

増田 栄治（プログラム統括責任者、委員長）
廣岡 慶治（プログラム管理者、循環器内科分野責任者）
松本 康史（消化器内科分野責任者）
山根 宏之（呼吸器内科分野責任者）
星 歩（糖尿病内科分野責任者）
斎藤 律子（看護部代表）
宮脇 康至（薬剤部代表）
橘 岳志（放射線部代表）
小島 健裕（中央検査部代表）
吉田 裕佳子（事務局代表、専攻医研修センター事務担当）

連携施設担当委員

大阪大学医学部附属病院	疋田 隼人
大阪刀根山医療センター	三木 真理
市立豊中病院	熊田 全裕
市立池田病院	澤井 良之
市立吹田市民病院	徳永 正浩
箕面市立病院	金井 秀行
市立伊丹病院	村山 洋子
近畿中央病院	上道 知之
西宮市立中央病院	小川 弘之

オブザーバー

内科専攻医代表 1 未定

別表1 済生会千里病院疾患群症例病歴要約到達目標

	内容	専攻医3年修了時 カリキュラムに示す疾患群	専攻医3年修了時 修了要件	専攻医2年修了時 経験目標	専攻医1年修了時 経験目標	※5 病歴要約提出数
分野	総合内科Ⅰ(一般)	1	1※2	1		
	総合内科Ⅱ(高齢者)	1	1※2	1		2
	総合内科Ⅲ(腫瘍)	1	1※2	1		
	消化器	9	5以上※1※2	5以上※1		3※1
	循環器	10	5以上※2	5以上		3
	内分泌	4	2以上※2	2以上		
	代謝	5	3以上※2	3以上		3※4
	腎臓	7	4以上※2	4以上		2
	呼吸器	8	4以上※2	4以上		3
	血液	3	2以上※2	2以上		2
	神経	9	5以上※2	5以上		2
	アレルギー	2	1以上※2	1以上		1
	膠原病	2	1以上※2	1以上		1
	感染症	4	2以上※2	2以上		2
	救急	4	4※2	4		2
外科紹介症例						2
剖検症例						1
合計※5	70疾患群	56疾患群 (任意選択含む)	45疾患群 (任意選択含む)	20疾患群	29症例 (外来は最大7)※3	
症例数※5	200以上 (外来は最大20)	160以上 (外来は最大16)	120以上	60以上		

※1 消化器分野では「疾患群」の経験と「病歴要約」の提出のそれぞれにおいて、「消化管」、「肝臓」、「胆・脾」が含まれること。

※2 修了要件に示した分野の合計は41疾患群だが、他に異なる15疾患群の経験を加えて、合計56疾患群以上の経験とする。

※3 外来症例による病歴要約の提出を7例まで認める。(全て異なる疾患群での提出が必要)

※4 「内分泌」と「代謝」からはそれぞれ1症例ずつ以上の病歴要約を提出する。

例) 「内分泌」2例+「代謝」1例、「内分泌」1例+「代謝」2例

※5 初期臨床研修時の症例は以下の条件をみたすものに限り、その取扱いを認める。

- 1) 日本国際内科学会指導医が直接指導をした症例であること。
- 2) 主たる担当医としての症例であること。
- 3) 直接指導を行った日本内科学会指導医が内科領域専門医としての経験症例とすることの承認が得られること。
- 4) 内科領域の専攻研修プログラムの統括責任者の承認が得られること。
- 5) 内科領域の専攻研修で必要とされる修了要件160症例のうち1/2に相当する80症例を上限とすること。病歴要約への適用も1/2に相当する14症例を上限とすること。

別表 2**済生会千里病院内科専門研修 週間スケジュール（例）**

消化器内科を研修時の週間予定例

	月	火	水	木	金	土
午前	病棟業務	上下部内視鏡検査	消化器エコー	上下部内視鏡検査	病棟業務	休日 2回/月
午後	各種処置 (内視鏡的 処置、 経皮的処置)	各種処置 (内視鏡的 処置、 経皮的処置)	下部内視鏡 検査、 大腸ポリペク トミー	各種処置 (内視鏡的 処置、 経皮的処置)	各種処置 (内視鏡的 処置、 経皮的処置)	
夕方		消化器内科 カンファ	消化器内科 抄読会		消化器合同検 討会	

消化器内科カンファでは専攻医はすべての受け持ち患者のプレゼンを行い、スタッフ全員で症例を検討します。

消化器内科抄読会では順番に英語の論文を紹介。専攻医にも順番がまわってきます。

消化器合同検討会では消化器内科、外科、放射線科、病理の医師が集まって症例を検討し、結果をフィードバックします。

消化器エコーではラジオ波焼灼や PEIT を考慮する症例の術前検討や、ルーチンのエコー検査では診断困難な疾患の検査を行っています。

その他、1回/月に半日休日（11：30まで勤務）の日が付与されます。

- ★ 大阪府済生会千里病院内科専門研修プログラム 4. 専門知識・専門技能の習得計画 に従い、内科専門研修を実践します。
 - ・上記はあくまでも例です。
 - ・内科および各診療科（Subspecialty）のバランスにより、担当する業務の曜日、時間帯は調整・変更されます。
 - ・入院患者診療には、内科と各診療科（Subspecialty）などの入院患者の診療を含みます。
 - ・日当直やオンコールなどは、内科もしくは各診療科（Subspecialty）の当番として担当します。
 - ・地域参加型カンファレンス、講習会、CPC、学会などは各自の開催日に参加します。

大阪府済生会千里病院

内科専門研修プログラム

指導医マニュアル



社会福祉法人 恩賜財團 大阪府済生会千里病院

目 次

タイトル	ページ
1) 専攻医研修ガイドの記載内容に対応したプログラムにおいて期待される指導医の役割	P1
2) 専門研修の期間	P1
3) 症例の登録、評価及び承認	P1
4) J-OSLER の利用方法	P2
5) 逆評価と J-OSLER を用いた指導の指導状況把握	P2
6) 指導に難渋する専攻医の扱い	P2
7) プログラムならびに各施設における指導医の待遇	P2
8) FD 講習の出席義務	P2
9) 日本内科学会作成の冊子「指導の手引き」の活用	P3
10) 研修施設群内で何らかの問題が発生し、施設群内で解決が困難な場合の相談先	P3
11) その他	P3
別表 1 済生会千里病院疾患群症例病歴要約到達目標	P4

- 1) 専攻医研修ガイドの記載内容に対応したプログラムにおいて期待される指導医の役割
 - ・1人の担当指導医（メンター）に専攻医1人が済生会千里病院内科専門研修プログラム委員会により決定されます。
 - ・担当指導医は、専攻医がwebにてJ-OSLERにその研修内容を登録するので、その履修状況の確認をシステム上で行ってフィードバックの後にシステム上で承認をします。この作業は日常臨床業務での経験に応じて順次行います。
 - ・担当指導医は、専攻医がそれぞれの年次で登録した疾患群、症例の内容について、都度、評価・承認します。
 - ・担当指導医は専攻医と十分なコミュニケーションを取り、研修手帳Web版での専攻医による症例登録の評価や専攻医研修センターからの報告などにより研修の進捗状況を把握します。専攻医はSubspecialtyの上級医と面談し、専攻医が経験すべき症例について報告・相談します。担当指導医とSubspecialtyの上級医は、専攻医が充足していないカテゴリ内の疾患を可能な範囲で経験できるよう、主担当医の割り振りを調整します。
 - ・担当指導医はSubspecialty上級医と協議し、知識、技能の評価を行います。
 - ・担当指導医は専攻医が専門研修（専攻医）2年修了時までに合計29症例の病歴要約を作成することを促進し、内科専門医ボードによる査読・評価で受理（アクセプト）されるように病歴要約について確認し、形成的な指導を行います。

2) 専門研修の期間

- ・年次到達目標は、P.4別表1「済生会千里病院疾患群症例病歴要約到達目標において求められる「疾患群」、「症例数」、「病歴提出数」について」に示すとおりです。
- ・担当指導医は、専攻医研修センターと協働して、3か月ごとに研修手帳Web版にて専攻医の研修実績と到達度を適宜追跡し、専攻医による研修手帳Web版への記入を促します。また、各カテゴリ内の研修実績と到達度が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。
- ・担当指導医は、専攻医研修センターと協働して、6か月ごとに病歴要約作成状況を適宜追跡し、専攻医による病歴要約の作成を促します。また、各カテゴリ内の病歴要約が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。
- ・担当指導医は、専攻医研修センターと協働して、6か月ごとにプログラムに定められている所定の学術活動の記録と各種講習会出席を追跡します。
- ・担当指導医は、専攻医研修センターと協働して、毎年8月と2月とに自己評価と指導医評価、ならびに360度評価を行います。評価終了後、1か月以内に担当指導医は専攻医にフィードバックを行い、形成的に指導します。2回目以降は、以前の評価についての省察と改善とが図られたか否かを含めて、担当指導医はフィードバックを形成的に行って、改善を促します。

3) 症例の登録、評価及び承認

- ・担当指導医はSubspecialtyの上級医と十分なコミュニケーションを取り、研修手帳Web版での専攻医による症例登録の評価を行います。
- ・研修手帳Web版での専攻医による症例登録に基づいて、当該患者の電子カルテの記載、退院サマリ作成の内容などを吟味し、主担当医として適切な診療を行っていると第三者が認めうると判断する場合に合格とし、担当指導医が承認を行います。
- ・主担当医として適切に診療を行っていると認められない場合には不合格として、担当指導医は

専攻医に研修手帳 Web 版での当該症例登録の削除、修正などを指導します。

4) J-OSLER の利用方法

- ・ 専攻医による症例登録と担当指導医が合格とした際に承認します。
- ・ 担当指導医による専攻医の評価、メディカルスタッフによる 360 度評価および専攻医による逆評価などを専攻医に対する形成的フィードバックに用います。
- ・ 専攻医が作成し、担当指導医が校閲し適切と認めた病歴要約全 29 症例を専攻医が登録したものを担当指導医が承認します。
- ・ 専門研修施設群とは別の J-OSLER によるピアレビューを受け、指摘事項に基づいた改訂を専攻医がアクセプトされるまでの状況を確認します。
- ・ 専攻医が登録した学会発表や論文発表の記録、出席を求められる講習会等の記録について、各専攻医の進捗状況をリアルタイムで把握します。担当指導医と専攻医研修センターはその進捗状況を把握して年次ごとの到達目標に達しているか否かを判断します。
- ・ 担当指導医は、J-OSLER を用いて研修内容を評価し、修了要件を満たしているかを判断します。

5) 逆評価と J-OSLER を用いた指導医の指導状況把握

専攻医による J-OSLER を用いた無記名式逆評価の集計結果を、担当指導医、施設の研修委員会、およびプログラム管理委員会が閲覧します。集計結果に基づき、大阪府済生会千里病院内科専門研修プログラムや指導医、あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます。

6) 指導に難渋する専攻医の扱い

必要に応じて、臨時（毎年 8 月と 2 月とに予定の他に）で、J-OSLER を用いて専攻医自身の自己評価、担当指導医による内科専攻医評価およびメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）を行い、その結果を基に済生会千里病院内科専門研修プログラム管理委員会で協議を行い、専攻医に対して形成的に適切な対応を試みます。状況によっては、担当指導医の変更や在籍する専門研修プログラムの異動勧告などを行います。

7) プログラムならびに各施設における指導医の待遇

済生会千里病院給与規定によります。

8) FD 講習の出席義務

厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会の受講を推奨します。
指導者研修（FD）の実施記録として、J-OSLER を用います。

9) 日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」の活用

内科専攻医の指導にあたり、指導法の標準化のため、日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」を熟読し、形成的に指導します。

10) 研修施設群内で何らかの問題が発生し、施設群内で解決が困難な場合の相談先
日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします。

11) その他
特になし.

別表1 済生会千里病院疾患群症例病歴要約到達目標

	内容	専攻医3年修了時 カリキュラムに示す疾患群	専攻医3年修了時 修了要件	専攻医2年修了時 経験目標	専攻医1年修了時 経験目標	※5 病歴要約提出数
分野	総合内科Ⅰ(一般)	1	1※2	1		
	総合内科Ⅱ(高齢者)	1	1※2	1		2
	総合内科Ⅲ(腫瘍)	1	1※2	1		
	消化器	9	5以上※1※2	5以上※1		3※1
	循環器	10	5以上※2	5以上		3
	内分泌	4	2以上※2	2以上		
	代謝	5	3以上※2	3以上		3※4
	腎臓	7	4以上※2	4以上		2
	呼吸器	8	4以上※2	4以上		3
	血液	3	2以上※2	2以上		2
	神経	9	5以上※2	5以上		2
	アレルギー	2	1以上※2	1以上		1
	膠原病	2	1以上※2	1以上		1
	感染症	4	2以上※2	2以上		2
	救急	4	4※2	4		2
外科紹介症例						2
剖検症例						1
合計※5	70疾患群	56疾患群 (任意選択含む)	45疾患群 (任意選択含む)	20疾患群	29症例 (外来は最大7)※3	
症例数※5	200以上 (外来は最大20)	160以上 (外来は最大16)	120以上	60以上		

※1 消化器分野では「疾患群」の経験と「病歴要約」の提出のそれぞれにおいて、「消化管」、「肝臓」、「胆・脾」が含まれること。

※2 修了要件に示した分野の合計は41疾患群だが、他に異なる15疾患群の経験を加えて、合計56疾患群以上の経験とする。

※3 外来症例による病歴要約の提出を7例まで認める。(全て異なる疾患群での提出が必要)

※4 「内分泌」と「代謝」からはそれぞれ1症例ずつ以上の病歴要約を提出する。

例) 「内分泌」2例+「代謝」1例、「内分泌」1例+「代謝」2例

※5 初期臨床研修時の症例は以下の条件をみたすものに限り、その取扱いを認める。

- 1) 日本国際内科学会指導医が直接指導をした症例であること。
- 2) 主たる担当医師としての症例であること。
- 3) 直接指導を行った日本内科学会指導医が内科領域専門医としての経験症例とすることの承認が得られること。
- 4) 内科領域の専攻研修プログラムの統括責任者の承認が得られること。
- 5) 内科領域の専攻研修で必要とされる修了要件160症例のうち1/2に相当する80症例を上限とすること。病歴要約への適用も1/2に相当する14症例を上限とすること。

大阪府済生会千里病院

内科専門研修プログラム

専攻医研修マニュアル



社会福祉法人 恩賜財團 大阪府済生会千里病院

目次

整備基準 44 に対応

タイトル	ページ
1) 専門研修後の医師像と修了後に想定される勤務形態や勤務先	P1
2) 専門研修の期間	P1
3) 研修施設群の各施設名	P2
4) プログラムに関わる委員会と委員、および指導医名	P2
5) 各施設での研修内容と期間	P3
6) 年次ごとの症例経験到達目標を達成するための具体的な研修の目安	P3
7) 年次ごとの症例経験到達目標を達成するための具体的な研修の目安	P4
8) 自己評価と指導医評価、ならびに 360 度評価を行う時期とフィードバックの時期	P6
9) プログラム修了の基準	P7
10) 専門医申請にむけての手順	P7
11) プログラムにおける待遇、ならびに各施設における待遇	P8
12) プログラムの特色	P8
13) 繼続した Subspecialty 領域の研修の可否	P8
14) 逆評価の方法とプログラム改良姿勢	P9
15) 研修施設群内で何らかの問題が発生し、施設群内で解決が困難な場合の相談先	P9
16) その他	P9
別表 1 済生会千里病院疾患群症例病歴要約到達目標	P10

1) 専門研修後の医師像と修了後に想定される勤務形態や勤務先

内科専門医の使命は、(1)高い倫理観を持ち、(2)最新の標準的医療を実践し、(3)安全な医療を心がけ、(4)プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を展開することです。内科専門医のかかわる場は多岐にわたるが、それぞれの場に応じて、

- ① 地域医療における内科領域の診療医（かかりつけ医）
- ② 内科系救急医療の専門医
- ③ 病院での総合内科（Generalist）の専門医
- ④ 総合内科的視点を持った Subspecialist

に合致した役割を果たし、地域住民、国民の信頼を獲得します。それぞれのキャリア形成やライフステージ、あるいは医療環境によって、求められる内科専門医像は単一でなく、その環境に応じて役割を果たすことができる、必要に応じた可塑性のある幅広い内科専門医を多く輩出することにあります。

済生会千里病院内科専門研修施設群での研修終了後はその成果として、内科医としてのプロフェッショナリズムの涵養と General なマインドを持ち、それぞれのキャリア形成やライフステージによって、これらいずれかの形態に合致することもあれば、同時に兼ねることも可能な人材を育成します。そして、

大阪府豊能医療圏に限定せず、超高齢社会を迎えた日本のいずれの医療機関でも不安なく内科診療にあたる実力を獲得していることを要します。また、希望者は Subspecialty 領域専門医の研修や高度・先進的医療、大学院などでの研究を開始する準備を整える経験をできることも、本施設群での研修が果たすべき成果です。

大阪府済生会千里病院内科専門研修プログラム終了後には、済生会千里病院内科施設群専門研修施設（下記）だけでなく、専攻医の希望に応じた医療機関で常勤内科医師として勤務する、または希望する大学院などで研究者として働くことも可能です。

2) 専門研修の期間



「連動研修(並行研修)」：内科専門研修にあたっては、その研修期間中にサブスペシャルティ領域を研修する状況があるが、この研修を基本領域のみの専門研修とするのではなく、サブスペシャルティ領域の専門研修としても取り扱うことを認める。但し、サブスペシャルティ専門研修としての指導と評価は、サブスペシャルティ指導医が行なう必要がある。

図 1 大阪府済生会千里病院内科専門研修プログラム（概念図）

基幹施設である済生会千里病院内科で、専門研修（専攻医）1年目に当院にて内科全般にわたる専門研修を行います。専攻医2年目には連携施設にて専門研修を行います。これは1年目に引き続

いて内科全般にわたる研修を行いますが、特に当院では症例数が不十分な疾患領域についての症例を重点的に経験します。専攻医1年目の秋に専攻医の希望・将来像、研修達成度およびメディカルスタッフによる360度評価（内科専門研修評価）などを基に、専門研修（専攻医）2年目の研修施設を調整し決定します。病歴提出を終える専門研修（専攻医）3年目の1年間は当院で研修を行います。

Subspecialtyの進路が決まっている専攻医については Subspecialty 重点型研修として、研修達成度を確認しながら Subspecialty 分野の研修を増やしていくプログラムも可能です。

3) 研修施設群の各施設名（大阪府済生会千里病院内科専門研修プログラム P.16-P.31「済生会千里病院研修施設群」参照）

基幹施設： 済生会千里病院

連携施設： 市立豊中病院

市立池田病院

市立吹田市民病院

箕面市民病院

大阪大学医学部附属病院

大阪刀根山医療センター

市立伊丹病院

近畿中央病院

西宮市立中央病院

4) プログラムに関わる委員会と委員、および指導医名

大阪府済生会千里病院内科専門研修プログラム管理委員会と委員名（大阪府済生会千里病院内科専門研修プログラム P.37「済生会千里病院内科専門研修プログラム管理委員会」参照）

【指導医師名】

氏名		所属	職責
姓	名		
増田	栄治	消化器内科	消化器内科主任部長
林	亨	循環器内科	名誉院長
松本	康史	消化器内科	部長
廣岡	慶治	循環器内科	循環器内科主任部長
西尾	まゆ	循環器内科	循環器内科部長
奥田	啓二	循環器内科	循環器内科副部長
久米	清士	循環器内科	循環器内科副部長
山根	宏之	呼吸器内科	呼吸器内科主任部長
古川	貢	呼吸器内科	呼吸器内科部長

多河	広史	呼吸器内科	呼吸器内科医長
澤野	宏隆	救急科	千里救命救急センター長

5) 各施設での研修内容と期間

専攻医 1 年目の秋に専攻医の希望・将来像、研修達成度およびメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）などを基に、専門研修（専攻医）2 年目の研修施設を調整し決定します。病歴提出を終える専門研修（専攻医）3 年目の 1 年間はまた当院で研修をします（図 1）。

6) 本整備基準とカリキュラムに示す疾患群のうち主要な疾患の年間診療件数

基幹施設である済生会千里病院診療科別診療実績を以下の表に示します。済生会千里病院は地域基幹病院であり、コモンディジーズを中心に診療しています。

表 1. 済生会千里病院内科系診療科別診療実績

2019 年度実績	新入院患者実数 (人/年)	外来延患者数 (延人数/年)
消化器内科	1, 180	15, 201
循環器内科	927	13, 557
呼吸器内科	411	7, 364
糖尿病代謝内科	92	6, 090
総合診療部	0	901
神経内科	0	901
膠原病リウマチ内科	132	3, 303

※ 13 領域の専門医が少なくとも 1 名以上在籍しています（大阪府済生会千里病院内科専門研修プログラム P. 16-P. 31「済生会千里病院内科専門研修施設群」参照）。

※ 割検体数は 2016 年度 10 体、2017 年度 6 体、2018 年度 3 体です。

7) 年次ごとの症例経験到達目標を達成するための具体的な研修の目安

表. 2 連携施設群

基幹病院	連携病院 A	連携病院 B
済生会千里病院	市立豊中病院	大阪刀根山医療センター
	市立池田病院	西宮市立中央病院
	市立吹田市民病院	
	箕面市立病院	
	大阪大学医学部附属病院	
	近畿中央病院	
	市立伊丹病院	

基本的に 1 年目を当院で、2 年目は連携施設で研修し、3 年目にまた当院で研修することになります。

大阪刀根山医療センターの連携は、当院の 1 名定員が埋まらない場合に、3 年目に大阪刀根山医療センターでの研修を希望する専攻医があれば参加していただくことが可能です。

Subspecialty 領域に拘泥せず、内科として入院患者を順次主担当医として担当します。主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流

れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。

入院患者担当の目安（基幹施設：済生会千里病院での一例）

当該月に以下の主たる病態を示す入院患者を主担当医として退院するまで受持ちます。

専攻医 1人あたりの受持ち患者数は、受持ち患者の重症度などを加味して、担当指導医、Subspecialty 上級医の判断で 5~10 名程度を受持ちます。感染症、総合内科分野は、適宜、領域横断的に受持ちます。

研修例①：専門内科 4科のうち、どれかの専門に進む Subspecialty 重点型コース。Subspecialty 研修の期間が 1年間のコースと、2年間のコースがあります。

消化器内科における Subspecialty 重点型のコース例を以下に示します。

消化器内科 Subspecialty 重点型コース

消化器内科の Subspecialty 重点型コースは、消化器内科中心の研修を行う期間が 1年間の 1年型と、2年間の 2年型があります。

a. 1年型

1年目は当院で内科全般の症例を研修し、2年目は連携病院で内科全般、とくに当院では経験できなかった専門内科の研修と症例の経験を行います。3年目は当院にもどり、消化器内科を中心とした研修をしていただきます。この3年目から消化器内科の疾患、検査、手技習得に本格的に取り組むことになります。従来の当院での後期研修医の習熟度からみると、この1年間の消化器内科中心の研修ののちには、胃カメラは独力で試行、大腸内視鏡は監督下で施行、ERCP は検査を監督下で施行、腹部エコーは可能であるが、肝生検はまだ助手の段階、というくらいのレベルには到達することになります。

新専門医制度での消化器内科学会の方針はまだ明らかにされていませんが、従来と同様に考えると、このプログラム修了後さらに 2年間の消化器内科を中心とした研修を行って専門医試験の受験資格が得られることが予想されます。希望があれば引き続き消化器病学会の認定施設である当院での消化器内科研修を行っていただくことを歓迎いたします。

専攻医 1年目(当院で)	消化器内科 3ヶ月	循環器内科 3ヶ月	呼吸器内科 3ヶ月	糖尿病内科 3ヶ月
専攻医 2年目(連携病院で)	内分泌、腎臓、神経、膠原病、血液内科など、当院での症例が十分でない疾患領域を重点的に 6ヶ月連携病院で		内分泌、腎臓、神経、膠原病、血液内科など、当院での症例が十分でない疾患領域を重点的に 6ヶ月連携病院で（同一の連携病院で連続 12ヶ月でも可とする）	
専攻医 3年目(当院で)	消化器内科の研修を中心に 12ヶ月(不足の診療領域については追加でローテートすることも可)			

b. 2年型

1年目は当院で内科全般の症例を研修し、2年目は連携病院で消化器内科を中心とした研修、および、不足している内科症例の経験をしていただきます。3年目はまた当院にて消化器内科

を中心としたプログラムで研修します。このプログラムでは3年間のうち2年が消化器内科を中心の研修となるため、従来の後期研修と同じように手技を習得していけば、プログラム終了時には胃の止血処置、大腸EMR、ERCPの検査、肝生検、くらいまでは到達できることになります。従来は認定内科医を取得してから3年以上消化器病学会の認定施設あるいは関連施設で臨床研修を修了すると消化器内科の専門医受験資格が得られました。新専門医制度での消化器内科学会の方針はまだ明らかにされていませんが、従来と同様に考えると、このプログラム修了後さらに1年間の消化器内科を中心とした研修を行うことが必要になります。引き続き消化器病学会の認定施設である当院での消化器内科研修を行っていただくことを歓迎いたします。

専攻医 1年目(当院で)	消化器内科 3ヶ月	循環器内科 3ヶ月	呼吸器内科 3ヶ月	糖尿病内科 3ヶ月	
専攻医 2年目(連携病院で)	消化器内科の研修を中心に連携病院で6ヶ月(不足の診療領域については追加でローテートすることも可)		消化器内科の研修を中心に連携病院で6ヶ月(同一の連携病院で連続12ヶ月でも可とする)		
専攻医 3年目(当院で)	消化器内科の研修を中心に当院にて12ヶ月(不足の診療領域については追加でローテートすることも可)				

研修例②：総合的に内科全体の診療経験を積む総合内科コース。3年目にまた当院で内科全般の研修を行います。

専攻医 1年目	消化器内科 3ヶ月	循環器内科 3ヶ月	呼吸器内科 3ヶ月	糖尿病内科 3か月	
専攻医 2年目	内分泌、腎臓、神経、膠原病、血液内科など、当院での症例が十分でない疾患領域を重点的に6ヶ月連携病院で		内分泌、腎臓、神経、膠原病、血液内科など、当院での症例が十分でない疾患領域を重点的に6ヶ月連携病院で（同一の連携病院で連続12ヶ月でも可とする）		
専攻医 3年目	消化器内科 3ヶ月	循環器内科 3ヶ月	呼吸器内科 3ヶ月	糖尿病内科 3か月	

研修例③：3年目に大阪刀根山医療センターで subspecialty 科の研修を中心に行うコース

専攻医 1年目	消化器内科 3ヶ月	循環器内科 3ヶ月	呼吸器内科 3ヶ月	糖尿病内科 3か月	
専攻医 2年目	内分泌、腎臓、神経、膠原病、血液内科など、当院での症例が十分でない疾患領域を重点的に6ヶ月(池田、吹田、箕面のいずれかの連携病院で)		内分泌、腎臓、神経、膠原病、血液内科など、当院での症例が十分でない疾患領域を重点的に6ヶ月連携病院で（同一の連携病院で連続12ヶ月でも可とする）		
専攻医 3年目	subspecialty 科の研修を中心に大阪刀根山医療センターで12か月(不足の診療領域については追加でローテートすることも可とする)				

8) 自己評価と指導医評価、ならびに360度評価を行う時期とフィードバックの時期

毎年8月と2月とに自己評価と指導医評価、ならびに360度評価を行います。必要に応じて臨時に行なうことがあります。

評価終了後、1か月以内に担当指導医からのフィードバックを受け、その後の改善を期して最善をつくします。2回目以降は、以前の評価についての省察と改善とが図られたか否かを含めて、担当指導医からのフィードバックを受け、さらに改善するように最善をつくします。

9) プログラム修了の基準

① J-OSLERを用いて、以下のi)～vi)の修了要件を満たすこと。

i) 主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全70疾患群を経験し、計200症例以上（外来症例は20症例まで含むことができます）を経験することを目標とします。その研修内容を日本内科学会専攻医登録評価システム（仮称）に登録します。修了認定には、主担当医として通算で最低56疾患群以上の経験と計160症例以上の症例（外来症例は登録症例の1割まで含むことができます）を経験し、登録済みです（P10別表1「済生会千里病院疾患群症例病歴要約到達目標」参照）。

ii) 29病歴要約の内科専門医ボードによる査読・形成的評価後に受理（アクセプト）されています。

iii) 学会発表あるいは論文発表を筆頭者で2件以上あります。

iv) JMECC受講歴が1回あります。

v) 医療倫理・医療安全・感染防御に関する講習会を年に2回以上受講歴があります。

vi) J-OSLERを用いてメディカルスタッフによる360度評価（内科専門研修評価）と指導医による内科専攻医評価を参照し、社会人である医師としての適性があると認められます。

② 当該専攻医が上記修了要件を充足していることを済生会千里病院内科専門医研修プログラム管理委員会は確認し、研修期間修了約1か月前に済生会千里病院内科専門医研修プログラム管理委員会で合議のうえ統括責任者が修了判定を行います。

〈注意〉「研修カリキュラム項目表」の知識、技術・技能修得は必要不可欠なものであり、修得するまでの最短期間は3年間（基幹施設2年間＋連携・特別連携施設1年間）とするが、修得が不十分な場合、修得できるまで研修期間を1年単位で延長することがあります。

10) 専門医申請にむけての手順

① 必要な書類

i) 日本専門医機構が定める内科専門医認定申請書

ii) 履歴書

iii) 大阪府済生会千里病院内科専門医研修プログラム修了証（コピー）

② 提出方法

内科専門医資格を申請する年度の5月末日までに日本専門医機構内科領域認定委員会に提出します。

③ 内科専門医試験

内科専門医資格申請後に日本専門医機構が実施する「内科専門医試験」に合格することで、日本専門医機構が認定する「内科専門医」となります。

11) プログラムにおける待遇、ならびに各施設における待遇

在籍する研修施設での待遇については、各研修施設での待遇基準に従う（大阪府済生会千里病院内科専門研修プログラム P. 16-P. 31 「済生会千里病院研修施設群」参照）

12) プログラムの特色

- ① 本プログラムは、大阪府豊能医療圏の中心的な急性期病院である済生会千里病院を基幹施設として、同医療圏、近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を経て超高齢社会を迎えた我が国の医療事情を理解し、必要に応じた可塑性のある、地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練されます。研修期間は基幹施設 2 年間+連携施設 1 年間の 3 年間です。条件によっては基幹施設 1 年間+連携施設 2 年間のコースが可能な場合もあります。
- ② 済生会千里病院内科施設群専門研修では、症例をある時点で経験するということだけではなく、主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。そして、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得をもって目標への到達とします。
- ③ 基幹施設である済生会千里病院は、大阪府豊能医療圏の中心的な急性期病院であるとともに、地域の病診・病病連携の中核です。一方で、地域に根ざす第一線の病院でもあり、コモンディジーズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。
- ④ 基幹施設である済生会千里病院での 2 年間（専攻医 2 年修了時）で、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群のうち、少なくとも通算で 45 疾患群、120 症例以上を経験し、日本内科学会専攻医登録評価システム（仮称）に登録できます。そして、専攻医 2 年修了時点で、指導医による形成的な指導を通じて、内科専門医ボードによる評価に合格できる 29 症例の病歴要約を作成できます（P.10 別表 1 「済生会千里病院疾患群症例病歴要約到達目標」参照）。
- ⑤ 済生会千里病院内科研修施設群の各医療機関が地域においてどのような役割を果たしているかを経験するために、専門研修 2 年目の 1 年間、立場や地域における役割の異なる医療機関で研修を行うことによって、内科専門医に求められる役割を実践します。7)（年次ごとの症例経験到達目標を達成するための具体的な研修の目安）に示したように、条件によっては当院で最初の 1 年、連携病院で残りの合計 2 年の研修を行うことがあります。
- ⑥ 基幹施設である済生会千里病院での 2 年間と専門研修施設群での 1 年間（専攻医 3 年修了時）で、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群、200 症例以上の主担当医としての診療経験を目標とします（別表 1 「済生会千里病院疾患群症例病歴要約到達目標」参照）。少なくとも通算で 56 疾患群、160 症例以上を主担当医として経験し、日本内科学会専攻医登録評価システム（仮称）に登録します。

13) 継続した Subspecialty 領域の研修の可否

- ・カリキュラムの知識、技術・技能を深めるために、総合内科外来（初診を含む）、Subspecialty 診療科外来（初診を含む）、Subspecialty 診療科検査を担当します。結果として、Subspecialty 領域の研修につながることはあります。
- ・カリキュラムの知識、技術・技能を修得したと認められた専攻医には積極的に Subspecialty 領域専門医取得に向けた知識、技術・技能研修を開始させます。

14) 逆評価の方法とプログラム改良姿勢

専攻医は日本内科学会専攻医登録評価システム（仮称）を用いて無記名式逆評価を行います。逆評価は毎年 8 月と 2 月とに行います。その集計結果は担当指導医、施設の研修委員会、およびプログラム管理委員会が閲覧し、集計結果に基づき、大阪府済生会千里病院内科専門研修プログラムや指導医、あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます。

15) 研修施設群内で何らかの問題が発生し、施設群内で解決が困難な場合の相談先

日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします。

16) その他

特になし。

別表1 濟生会千里病院疾患群症例病歴要約到達目標

	内容	専攻医3年修了時 カリキュラムに示す疾患群	専攻医3年修了時 修了要件	専攻医2年修了時 経験目標	専攻医1年修了時 経験目標	※5 病歴要約提出数
分野	総合内科Ⅰ(一般)	1	1※2	1		
	総合内科Ⅱ(高齢者)	1	1※2	1		2
	総合内科Ⅲ(腫瘍)	1	1※2	1		
	消化器	9	5以上※1※2	5以上※1		3※1
	循環器	10	5以上※2	5以上		3
	内分泌	4	2以上※2	2以上		
	代謝	5	3以上※2	3以上		3※4
	腎臓	7	4以上※2	4以上		2
	呼吸器	8	4以上※2	4以上		3
	血液	3	2以上※2	2以上		2
	神経	9	5以上※2	5以上		2
	アレルギー	2	1以上※2	1以上		1
	膠原病	2	1以上※2	1以上		1
	感染症	4	2以上※2	2以上		2
	救急	4	4※2	4		2
外科紹介症例						2
剖検症例						1
合計※5	70疾患群	56疾患群 (任意選択含む)	45疾患群 (任意選択含む)	20疾患群	29症例 (外来は最大7)※3	
症例数※5	200以上 (外来は最大20)	160以上 (外来は最大16)	120以上	60以上		

※1 消化器分野では「疾患群」の経験と「病歴要約」の提出のそれぞれにおいて、「消化管」、「肝臓」、「胆・脾」が含まれること。

※2 修了要件に示した分野の合計は41疾患群だが、他に異なる15疾患群の経験を加えて、合計56疾患群以上の経験とする。

※3 外来症例による病歴要約の提出を7例まで認める。(全て異なる疾患群での提出が必要)

※4 「内分泌」と「代謝」からはそれぞれ1症例ずつ以上の病歴要約を提出する。

例) 「内分泌」2例+「代謝」1例, 「内分泌」1例+「代謝」2例

※5 初期臨床研修時の症例は以下の条件をみたすものに限り、その取扱いを認める。

- 1) 日本国内科学会指導医が直接指導をした症例であること。
- 2) 主たる担当医師としての症例であること。
- 3) 直接指導を行った日本国内科学会指導医が内科領域専門医としての経験症例とすることの承認が得られること。
- 4) 内科領域の専攻研修プログラムの統括責任者の承認が得られること。
- 5) 内科領域の専攻研修で必要とされる修了要件160症例のうち1/2に相当する80症例を上限とすること。病歴要約への適用も1/2に相当する14症例を上限とすること。